



向上と進展



[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

新年のご挨拶

会長 松本 正之

新年あけましておめでとうございます。日頃は、公益社団法人日本学生陸上競技連合に対し格別のご理解とご協力をいただきありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、その対策など多くの制限がある中での競技会運営となりましたが、それぞれの大会は充実したものであったと考えます。6月に開催いたしました2021日本学生陸上競技個人選手権大会(神奈川県・平塚市)では、男子1つ、女子5つの大会新記録が誕生しました。また9月に開催いたしました天皇賜盃第90回日本学生陸上競技対校選手権大会(埼玉県・熊谷市)では、個人種目は男子2つ、女子3つ、リレー種目は1つの大会新記録が誕生しました。また、男子三段跳、女子3000mSC、女子4×100mRにて日本学生新記録が樹立されるという素晴らしい結果となりました。対校戦としては、男子は順天堂大学が2年ぶり29度目の総合優勝、女子は日本体育大学が4年ぶり9度目の総合優勝を飾りました。

駅伝シーズンでも引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、各大会の開催に向けて全力を尽くしました。10月の第33回出雲全日本大学駅伝競走では東京国際大が3区から先頭を守り抜き初優勝、第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会では名城大が史上2校目の5連覇を果たしました。11月に伊勢路で開催された第53回全日本大学駅伝対校選手権大会では、最終区まで目まぐるしく先頭が入れ替わる中で

駒澤大が2連覇を果たしました。年末の2021全日本大学女子選抜駅伝競走では名城大が4連覇を達成し、4年連続駅伝2冠に輝きました。

前年同様に新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えない中、すべての大会を無事に開催できましたのも、関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

なお、2021年度内行事として3月に男女のハーフマラソン選手権大会(男子：立川、女子：松江)、第16回日本学生20km競歩選手権大会(能美)が控えております。競技者には一層の奮起を期待しております。

新年度は、FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)、世界陸上競技選手権大会(アメリカ・オレゴン州)が開催されます。東京オリンピックに続き、多くの学生競技者の大会への参加とその活躍を期待しています。9月に天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権大会を京都府京都市のたけびしスタジアム京都にて開催いたします。関西学生陸上競技連盟、京都陸上競技協会をはじめとする関係各位のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。その他の大会についても、関係する方々と力を合わせて、円滑な開催と運営に努力してまいります。

学生競技者諸君の一層の精進と関係の皆様のご理解・ご指導をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和4年正月

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報 第163号 (令和4年1月15日発行)

向上と進展

目次

新年のご挨拶	1
【大会報告】	
第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	3
秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会	6
2021全日本大学女子選抜駅伝競走	10
【会議報告】	
第50回理事会 議事録	14
令和3年学生役員会議	30
【告知】	
第67回指導者会議（コンプライアンス研修会）開催要項	31
【報告等】	
2021年日本学生新記録章贈与式を開催	13
強化委員会・競技委員会より	32
「陸上競技研究」発行における令和2年度スポーツ振興くじ助成金の実施結果について	33
令和3年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について	33
普通会員数報告	34
賛助会員募集／入会報告／編集後記	35

【大会報告】

第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

常任幹事 松原 月歌

1. 大会名：第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
2. 大会期日：2021年10月31日(日)
3. 場所：宮城・仙台市 弘進ゴムアスリートパーク仙台～仙台市役所前市民広場
4. エントリー数：25校・東北学連選抜チーム
5. 大会総括

2021年10月31日(日)、宮城県仙台市において第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が開催されました。前回大会の上位8校と各地区の予選を勝ち抜いた17校、オープン参加の東北学連選抜を加えた計26チームが、杜の都を駆け抜けました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延によって一時は開催が危ぶまれた今大会でありましたが、関係各位のご協力、ご支援によって、万全に感染症対策を施したうえで無事に開催することができました。今大会の女王には名城大が輝きました。

1区では名城大の山本有真が圧倒的な走りで区間賞を獲得しました。好スタートを切った名城大は2区の高松智美ムセンビが区間新記録の快走を見せました。続く3区のと田有菜も区間賞を獲得して後続を突き放すと、4区の谷本七星が区間記録を更新する走りで先頭を独走。これを日本体育大、立命館大が追いかけるかたちとなりました。

5区では拓殖大の不破聖衣来が1年生ながら区間記録を1分14秒更新する激走を見せましたが、名城大が首位を譲ることはありませんでした。6区のアン

カー・増渕祐香が区間新記録の走りでさらにリードを広げてフィニッシュテープを切り、大会史上最多タイの5連覇を達成しました。

1区で転倒のアクシデントがあった大東文化大は、5区の鈴木優花が区間新(区間2位)の力走を見せるなど怒涛の追い上げで2位。前回より6つ順位を上げた拓殖大が3位となりました。4位に立命館大、5位に日本体育大がフィニッシュ。日本体育大の2区・尾方唯莉は見事区間記録を更新しましたが、惜しくも区間2位でした。以下、6位に大阪学院大、7位に城西大と続き、8位の松山大までが来年度大会へのシード権を見事獲得しました。

また、2021年12月30日(木)に富士宮市～富士市にて開催される2021全日本大学女子選抜駅伝競走の出場を希望する本大会の上位12校が、出場権を獲得しました。

昨年度に引き続き、例年とは異なる情勢下の中で今大会を無事に開催することができたのも、主催の読売新聞社、共催の仙台市、特別協賛のスターツグループ、ご協賛いただいている関係各社、運営協力の東北学生陸上競技連盟、宮城陸上競技協会、仙台市スポーツ振興事業団をはじめとする関係各位のご支援、ご協力があったことと、深く感謝しております。来年以降も出場選手、運営側、観客の方々をはじめ、関わる皆様に希望を届けられるよう、より良い大会を目指してがんばっていきたくております。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



26チームが参加して行われた



女子駅伝 ◎STARIS スターツ 第39回全日本大学女子駅伝

5連覇のフィニッシュテープを切った名城大のアンカー・増渕祐香。自身も区間新の力走で2年連続区間賞も獲得



1区から1度も首位を譲らなかった名城大は、2区(3.9km)と3区(6.9km)は駅伝負け知らずの4年生リレー。高松智美ムセンビ(左)が自身の区間記録を2年ぶりに19秒塗り替える12分01秒、和田有菜も1年時(1区)以来の区間賞で2位との差を1分19秒に広げた



本大学女子駅伝 ◎STARIS スターツ 第40回

大東文化大が5年連続の2位。1区の吉村玲美が転倒するアクシデントがあって11位スタートとなったが、2区以降で巻き返した。写真はアンカーの山賀瑞穂



4年連続4回目の出場で初のシード権をトップスリー入りでつかんだ拓殖大。9位でタスキを受けた5区のスーパールーキー・不破聖衣来が従来の区間記録を1分14秒も短縮する28分00秒の激走で6人抜きを演じ、大躍進の原動力となった



2年連続の4位となった立命館大。写真は3年生主将・飛田凜香(右)から平岡美帆への中継



ともに3年連続のシード権を手にした5位の日本体育大(2区・尾方唯莉、右)と7位の城西大(2区・森尻真優)。日本体育大・尾方は12分17秒の区間新をマーク



8年連続シード権獲得となる6位でフィニッシュした大阪学院大のアンカー・入江ちはゆ



前回に続く8位で4年連続シードを確保した松山大。写真は1区2位と好走した大谷菜南子(左)から2区・鈴木樺蓮への中継

第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 成績

2021年10月31日(日) 宮城・仙台市 弘進ゴムアスリートパーク仙台～仙台市役所前市民広場
上段=通過タイム 下段=区間タイム ●=区間新

チーム名	1区 (6.6km)	2区 (3.9km)	3区 (6.9km)	4区 (4.8km)	5区 (9.2km)	6区 (6.7km)	総合成績 (38.1km)
①名城大学	山本 有真(3) (1) 21.48 (1) 21.48	高松智美ムセンビ(4) (1) 33.49 (1) ●12.01	和田 有菜(4) (1) 55.40 (1) 21.51	谷本 七星(1) (1) 1.11.17 (1) ●15.37	小林 成美(3) (1) 1.40.45 (3) 29.28	増瀨 祐香(2) (1) 2.02.59 (1) ●22.14	2.02.59
②大東文化大学	吉村 玲美(3) (11) 22.16 (11) 22.16	四元 桃奈(1) (8) 34.48 (5) 12.32	鈴木日菜子(1) (7) 58.02 (9) 23.14	藤原 唯奈(1) (5) 1.13.53 (3) 15.51	鈴木 優花(4) (2) 1.42.52 (2) ●28.59	山賀 瑞穂(3) (2) 2.05.35 (4) 22.43	2.05.35
③拓殖大学	牛 佳慧(3) (13) 22.21 (13) 22.21	山下 花音(2) (10) 35.12 (12) 12.51	小谷 真波(2) (11) 58.44 (14) 23.32	門脇 奈穂(1) (9) 1.15.01 (9) 16.17	不破聖衣来(1) (3) 1.43.01 (1) ●28.00	伊井萌佑子(2) (3) 2.06.23 (13) 23.22	2.06.23
④立命館大学	村松 灯(1) (9) 22.10 (9) 22.10	御崎 舞(4) (7) 34.40 (4) 12.30	飛田 凜香(3) (3) 57.07 (2) 22.27	平岡 美帆(3) (3) 1.13.09 (4) 16.02	中地こころ(1) (6) 1.44.05 (11) 30.56	小林 朝(2) (4) 2.06.30 (2) 22.25	2.06.30
⑤日本体育大学	保坂 晴子(2) (3) 21.55 (3) 21.55	尾方 唯莉(1) (2) 34.12 (2) ●12.17	山崎 りさ(1) (2) 56.59 (2) 22.47	岡島 楓(4) (2) 1.12.46 (2) 15.47	栗原 泉(2) (4) 1.43.51 (13) 31.05	宮内 志佳(2) (5) 2.06.56 (7) 23.05	2.06.56
⑥大阪学院大学	小林舞妃留(1) (5) 21.59 (5) 21.59	依田 来巳(1) (6) 34.38 (7) 12.39	室伏 香音(4) (5) 57.33 (5) 22.55	袴田 華帆(3) (6) 1.14.14 (16) 16.41	永長 里緒(1) (5) 1.43.59 (4) 29.45	入江ちほ(4) (6) 2.07.07 (9) 23.08	2.07.07
⑦城西大学	木村 桜華(1) (4) 21.55 (4) 21.55	森尻 真優(3) (3) 34.18 (3) 12.23	渡辺 光美(3) (4) 57.22 (7) 23.04	田代なのは(1) (4) 1.13.48 (11) 16.26	福嶋 摩耶(1) (8) 1.44.31 (8) 30.43	藤村 華純(3) (7) 2.07.10 (3) 22.39	2.07.10
⑧松山大学	大谷菜南子(4) (2) 21.55 (2) 21.55	鈴木 樺連(4) (4) 34.36 (8) 12.41	西山未奈美(4) (6) 57.49 (8) 23.13	大内 もか(4) (8) 1.14.19 (12) 16.30	小松 優衣(3) (7) 1.44.26 (5) 30.07	田川 友貴(4) (8) 2.07.18 (5) 22.52	2.07.18
⑨東北福祉大学	金澤 佳子(3) (8) 22.03 (8) 22.03	小松 莉菜(3) (5) 34.37 (6) 12.34	植田 真央(4) (8) 58.06 (13) 23.29	武内わか(3) (7) 1.14.17 (6) 16.11	田中 杏梨(4) (9) 1.45.37 (16) 31.20	小高 夏綺(4) (9) 2.08.46 (10) 23.09	2.08.46
⑩関西大学	伐栗 夢七(1) (12) 22.20 (12) 22.20	木下 茜(3) (12) 35.18 (14) 12.58	石松 空(1) (18) 59.17 (20) 23.59	近藤 来那(2) (16) 1.15.36 (10) 16.19	柳谷 日菜(4) (10) 1.45.47 (6) 30.11	飯島 果隼(2) (10) 2.09.05 (12) 23.18	2.09.05
⑪大阪芸術大学	北川 星瑠(2) (7) 22.02 (7) 22.02	城谷 桜子(4) (9) 34.50 (11) 12.48	宮永 光唯(4) (10) 58.27 (15) 23.37	野中和佳菜(1) (13) 1.15.19 (17) 16.52	古賀 華美(3) (13) 1.46.24 (13) 31.05	古原 夏音(2) (11) 2.09.17 (6) 22.53	2.09.17
⑫中京学院大学	松本 七海(3) (14) 22.29 (14) 22.29	安藤みなみ(1) (17) 35.36 (17) 13.07	近藤 萌江(2) (17) 59.00 (11) 23.24	加藤 若葉(2) (12) 1.15.13 (8) 16.13	稲葉 夢香(2) (12) 1.46.09 (11) 30.56	加藤 愛結(2) (12) 2.09.24 (11) 23.15	2.09.24
⑬関西外国語大学	西出 優月(4) (6) 22.00 (6) 22.00	小椋 美海(4) (11) 35.14 (19) 13.14	山岸みなみ(2) (14) 58.51 (15) 23.37	三輪南菜子(1) (10) 1.15.02 (6) 16.11	矢尾 桃子(3) (11) 1.45.56 (10) 30.54	細江 美玖(4) (13) 2.09.57 (16) 24.01	2.09.57
⑭福岡大学	黒石 瑠香(3) (19) 22.45 (19) 22.45	徳留 舞(1) (18) 35.43 (14) 12.58	末永 恋菜(1) (19) 59.24 (20) 23.41	長興 桜子(4) (20) 1.16.02 (15) 16.38	笠原 奈月(2) (18) 1.47.13 (15) 31.11	花房 百伽(4) (14) 2.10.18 (7) 23.05	2.10.18
⑮佛光大学	芝本 涼花(4) (17) 22.36 (17) 22.36	青松 真那(4) (13) 35.21 (9) 12.45	久木 柚奈(3) (16) 58.58 (15) 23.37	中川 瑞稀(2) (18) 1.15.55 (18) 16.57	原田 萌花(3) (14) 1.46.37 (7) 30.42	清水ひなた(2) (15) 2.10.27 (14) 23.50	2.10.27
⑯鹿屋体育大学	久保希蘭(1) (18) 22.42 (18) 22.42	森北 詩音(2) (19) 35.52 (18) 13.10	中島 紗弥(4) (9) 58.26 (3) 22.34	久田ちひろ(4) (15) 1.15.32 (20) 17.06	枝尾 祐希(4) (17) 1.47.08 (18) 31.36	仲道 彩音(4) (16) 2.11.00 (15) 23.52	2.11.00
⑰兵庫大学	長岡 あず(1) (10) 22.14 (10) 22.14	小川 美空(2) (15) 35.29 (20) 13.15	福永 愛佳(1) (12) 58.50 (10) 23.21	前田久瑠美(4) (17) 1.15.50 (19) 17.00	清水 里名(4) (15) 1.46.37 (9) 30.47	白井かすみ(1) (17) 2.11.14 (20) 24.37	2.11.14
⑱中央大学	島貫恵梨子(1) (20) 22.47 (20) 22.47	鈴木梨々亜(2) (16) 35.33 (10) 12.46	大塚 沙弥(4) (19) 59.21 (19) 23.48	風間 歩佳(2) (19) 1.15.58 (14) 16.37	高野 美穂(1) (19) 1.47.21 (17) 31.23	大塚 明実(1) (18) 2.11.23 (17) 24.02	2.11.23
⑲順天堂大学	丹羽 瑞希(1) (22) 22.54 (22) 22.54	小野 汐音(3) (20) 35.55 (16) 13.01	小暮 真緒(1) (15) 58.54 (6) 22.59	垣内 瑞希(2) (11) 1.15.04 (5) 16.10	山際 夏芽(1) (16) 1.46.44 (19) 31.40	二川 彩香(3) (19) 2.11.25 (21) 24.41	2.11.25
⑳筑波大学	檜原 沙紀(2) (16) 22.34 (16) 22.34	澤井 柚葉(2) (14) 35.25 (12) 12.51	西永 菜津(4) (13) 58.51 (12) 23.26	阿部 風薫(3) (14) 1.15.23 (13) 16.32	高橋 香澄(4) (20) 1.47.28 (20) 32.05	本庄悠紀奈(3) (20) 2.11.33 (18) 24.05	2.11.33
㉑環太平洋大学	近藤 紗貴(4) (24) 23.06 (24) 23.06	小林 舞香(1) (22) 36.31 (21) 13.25	小野理央奈(3) (23) 1.02.33 (25) 26.02	浴森 美優(1) (21) 1.20.29 (23) 17.56	堀尾 和帆(4) (21) 1.53.05 (21) 32.36	松崎 由衣(4) (21) 2.17.38 (19) 24.33	2.17.38
㉒新潟医療福祉大学	保科 琴音(3) (21) 22.53 (21) 22.53	棚谷 小梅(4) (24) 37.42 (26) 14.49	吉田 千紘(4) (22) 1.02.15 (21) 24.33	田中 優麻(3) (24) 1.20.44 (24) 18.29	鈴木こなつ(3) (23) 1.54.17 (23) 33.33	佐藤 晴奈(2) (22) 2.19.07 (22) 24.50	2.19.07
㉓札幌国際大学	大西 世那(2) (23) 22.55 (23) 22.55	石川 由乃(1) (23) 36.56 (23) 14.01	錦 寧(1) (24) 1.02.41 (23) 25.45	村雲 央佳(4) (22) 1.20.30 (22) 17.49	阿部麻莉亜(4) (22) 1.53.46 (22) 33.16	濱田李佳子(2) (23) 2.19.40 (23) 25.54	2.19.40
㉔石巻専修大学	齋藤 凜(3) (15) 22.31 (15) 22.31	高橋 里奈(1) (21) 36.10 (22) 13.39	千葉彩有花(4) (21) 1.01.07 (22) 24.57	長谷川日菜(2) (23) 1.20.30 (26) 19.23	伊藤 千尋(1) (24) 1.57.00 (25) 36.30	遠藤 美玲(1) (24) 2.23.10 (24) 26.10	2.23.10
㉕中京大学	村上 弓月(2) (25) 24.19 (25) 24.19	稲吉 椿(3) (25) 38.23 (24) 14.04	白坂 瑞稀(3) (25) 1.04.24 (24) 26.01	太田 真帆(1) (25) 1.22.02 (21) 17.38	伊藤 優衣(3) (25) 1.57.03 (24) 35.01	木村 明梨(4) (25) 2.24.03 (26) 27.00	2.24.03
東北学連選抜 (オープン)	齋藤ひなた(2) (福島大学) (26) 25.28	上條 麻奈(M2) (東北大学) (25) 39.53 (25) 14.25	三上 爽子(M2) (弘前大学) (26) 1.06.14 (26) 26.21	中島 有希(3) (福島大学) (25) 1.25.02 (25) 18.48	大友万杏子(1) (福島大学) (26) 36.59	阿部 柚佳(3) (東北大学) (25) 2.28.53 (25) 26.52	2.28.53
過去最高記録	五島 莉乃 (中央大学) 20.55 (19年)	高松智美ムセンビ (名城大学) 12.20 (19年)	小林 成美 (名城大学) 21.37 (20年)	高見沢里歩 (松山大学) 15.38 (16年)	加世田梨花 (名城大学) 29.14 (20年)	鈴木 優花 (大東文化大学) 22.17 (20年)	名城大学 2.02.57 (2020年)

【大会報告】

秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会

常任幹事 山崎 るな

1. 大会名：秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会
2. 大会期日：2021年11月7日（日）
3. 場所：愛知県・三重県 熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮宇治橋前
4. エントリー数：25校・日本学連選抜チーム・東海学連選抜チーム
5. 大会総括

秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月7日（日）に熱田神宮西門前から伊勢神宮内宮宇治橋前までの全8区間106.8kmで行われました。大会当日は秋らしい気候の中、全27チームが爽やかに伊勢路を駆け抜けました。

1区では駒澤大の佐藤条二選手、國學院大の島崎慎愛選手、中央大の吉居大和選手の3名が区間新記録を樹立するハイレベルな戦いが繰り広げられ、佐藤選手がトップでタスキを渡しました。

2区では順天堂大の三浦龍司選手が圧巻の走りを見せ、10位から1位に順位を押し上げてトップで中継所に入りました。3区では東京国際大のイエゴン・ヴィンセント選手が凄まじい速さで先頭集団を大きく突き放しました。4区ではと東京国際大がそのまま首位の座を守りましたが、区間賞は青山学院大の高橋勇輝選手と東洋大の石田洸介選手が同タイムで手にしました。

5区では早稲田大が石塚陽士選手の力走でトップに立ちました。前回大会でこの区間の区間新記録を樹立した青山学院大の佐藤一世選手は今大会でも快走、トップとの差を

1分以上縮め、区間賞を獲得しました。6区では東京国際大の丹所健選手が粘り強い走りでもトップを取り返しました。

7区では前回大会MVPの駒澤大・田澤廉選手が区間賞を獲得、さらにトップでタスキを渡しました。駒澤大はアンカーの花尾恭輔選手が、青山学院大・飯田貴之選手との激闘を制して先頭を守り抜き、フィニッシュテープを切りました。最後まで優勝の行方がわからない白熱したレースでしたが、駒澤大は2年連続14回目の優勝を成し遂げました。MVPは田澤選手が2年連続で獲得しました。

来年度大会のシード権は上位8校の駒澤大、青山学院大、順天堂大、國學院大、東京国際大、早稲田大、明治大、中央大に与えられます。

新型コロナウイルス感染症が蔓延している中、全日本大学駅伝が無事に開催できたのは、ご支援、ご協力いただいている多くの方々によるものです。この大会がさらに発展し、陸上界の盛り上がりにつながるよう、今後ともよろしくお願いたします。



駒澤大が2年連続14回目の優勝を飾った。写真はアンカーの花尾恭輔



最終区で駒澤大と青山学院大が並走する白熱の展開に。残り2kmで駒澤大・花尾（左）がロングスパートを放ち、青山学院大の飯田貴之を振り切った。優勝と2位を分けた8秒差は大会史上最少差だった



駒澤大は1区の佐藤条二（中央）が区間トップで絶好のスタート



駒澤大は4区の赤星雄斗が区間4位と好走し、11位まで落ちた順位を9位に戻す



連覇への流れを引き寄せたのが7区のエース・田澤廉。3年連続区間賞の快走で首位を奪還した。2年連続MVPにも輝く



2区の青柿響（左）は区間10位、3区の佃康平は区間12位と力を発揮できなかったが、この時点でライバル・青山学院大との差は19秒にとどめる



5区の東山静也（左）は区間8位と苦しい走りになったが、6区の安原太陽は区間2位タイと好走して5人抜きで4位まで浮上した



3年ぶりV奪還を狙った青山学院大は4区の高橋勇輝、5区の佐藤一世（写真）の連続区間賞などで追い上げたが駒澤大にわずかに及ばず2位となった



20年ぶりトップスリーとなる3位を占めた順天堂大。2区で区間賞に輝いた三浦龍司で先頭に立つと、終盤まで常に上位争いを繰り広げた

過去最高（6位）を上回る4位に入った國學院大。6区終了時の8位から7区の平林清澄（左）が1つ、8区の伊地知賢造が3つ順位を上げた。伊地知は区間賞も獲得



6位の早稲田大は前回から1つ順位を落としたものの、5区の石塚陽士で首位に立つなど中盤戦を盛り上げた



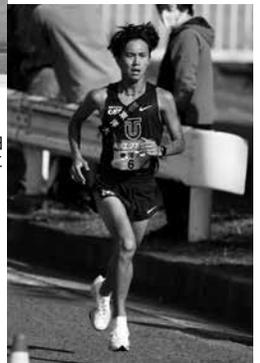
9年ぶり出場となった中大が8位で10年ぶりにシード権獲得。区間5位の好走を見せたアンカーの手島駿が歓喜のフィニッシュ

10月の出雲駅伝を制した東京国際大が2年ぶりシード権獲得となる5位。3区でイエゴン・ヴィンセントが相澤晃（東洋大／現・旭化成）の持つ区間記録を15秒更新する32分46秒で走破して6位から首位に立ち、6区では丹所健（左）が区間初の力走で4位から首位を奪い返して7区の野澤巧理にタスキを渡すなど、随所に存在感を示した



7位で2年連続シード権を死守した明治大。写真は6区の鈴木聖人（右）から7区の橋本大輝へのタスキリレー

東洋大のスーパールーキー・石田洸介は4区で出雲駅伝（5区）に続く区間賞を獲得



秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会 成績

2021年11月7日(日) 愛知県・三重県 熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮宇治橋前
上段=総合成績 下段=区間成績 ●=区間新

Table with columns for Team Name (チーム名), 1st-8th zones (1区 to 8区), and Total Score (総合成績). Rows list various universities and their runners with times and zone records.

【大会報告】

2021全日本大学女子選抜駅伝競走

常任幹事 崎井優希菜

1. 大会名：2021全日本大学女子選抜駅伝競走
2. 大会期日：2021年12月30日
3. 場 所：静岡県富士市/富士宮市・富士山本宮浅間大社前～富士総合運動公園陸上競技場
4. エントリー数：22校・全日本大学選抜チーム・静岡県学生選抜チーム 計24チーム
5. 大会総括

令和3年12月30日(木)、2021年を締めくくる駅伝大会である2021全日本大学女子選抜駅伝競走(2021富士山女子駅伝)が、静岡県富士宮市・富士山本宮浅間大社前から富士市・富士総合運動公園陸上競技場までの7区間43.4kmで行われました。当日は、雪をかぶった綺麗な富士山が始終顔をのぞかせる中、第39回全日本大学女子駅伝の上位12校、5000mのタイムから選考された10校と2つの選抜チームを合わせた計24チームが、今年度も日本一を決めるのにふさわしい激闘を繰り広げました。今大会では2年ぶりに静岡県選抜チームと全日本大学選抜チームが結成されました。

本大会3連覇中の名城大が4年連続大学女子駅伝2冠を達成するのか、前回大会2位で10月の第39回全日本大学女子駅伝でも2位だった大東文化大、10000mで日本学生記録を叩き出した不破聖衣来選手を筆頭に勢いに乗る拓殖大が名城大の牙城を崩すかに注目が集まりました。

1区では、1km過ぎに名城大の谷本七星選手がトップに立つと、終盤には粘りのスパートを見せて区間賞を獲得。2区では、東北福祉大の金澤佳子選手と大阪芸術大の北川星瑠選手が区間賞を獲得したものの、名城大の勢いは衰えず首位を守りました。

3区では、日本体育大の嶋田桃子選手が猛追するも、名城大の井上葉南選手が競技生活ラストレースの意地を見せた走りで区間賞を獲得。4区では山本有真選手が3年連続で区間賞を獲得し、名城大がさらにリードを広げました。

エース区間の5区では、前評判の高かった拓殖大の不破選手が従来の区間記録を1分54秒も塗り替え

る走りで区間賞を獲得。大東文化大の鈴木優花選手も従来の区間記録を更新しましたが、名城大の和田有菜選手も区間記録を更新する好走を見せ、首位をガッチリと守りました。6区でも名城大が独走態勢をキープ。区間賞は区間タイ記録をマークした立命館大の飛田凜香選手が獲得しました。

最終7区は、名城大のアンカーを任された小林成美選手は首位でタスキを受け取ると、勢いそのままに区間賞の走りを見せてフィニッシュテープを切りました。名城大は1区から1度も首位の座を譲ることなく優勝、本大会4連覇と圧倒的な強さを見せつけました。2位には大東文化大が入り、3位には日本体育大が続きました。

2021年の日本学連主催競技会はこの大会をもって終了いたしました。2021年は新たな変異株が蔓延するなど、20年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年となりました。

2022年は1年延期となったFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)や世界陸上競技選手権大会(米国・オレゴン)が控えております。2022年も多くの皆様のご支援・ご協力を賜りながら、日本学生陸上界の向上と進展のためにより一層の努力をしていく所存でありますので、何卒よろしく願いいたします。最後になりますが、新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収束し、平穏な日常が取り戻せるよう心から願っております。



富士山に見守られながらスタートを切った24チームの1区ランナーたち



4連覇のフィニッシュテープを切った名城大のアンカー・小林成美



10月の全日本大学女子駅伝と同じく1区から1度も首位を譲らない磐石の継走で、4年連続駅伝2冠を獲得した



4年連続で2位を占めた大東文化大。写真は6区の磐江きりの(左)からアンカー・山賀瑞穂への中継



全日本大学女子駅伝に続いて3位に入った日本体育大。写真はアンカーの保坂晴子



前回から1つ順位を落として4位だった立命館大。6区で飛田凜香が区間タイ記録をマークと気を吐いた

5区では学生女子長距離界を代表する2人、拓殖大の不破聖衣来(右)と大東文化大の鈴木優花が激突。不破が2週間前に10000mで日本歴代2位・日本学生新記録の30分45秒21をマークした実力を発揮し、従来の区間記録を1分54秒も短縮する爆走。鈴木も同じく区間新、10人抜き力走を見せた



2021全日本大学女子選抜駅伝競走 成績

2021年12月30日(木) 静岡県富士市/富士宮市・富士山本宮浅間大社前-富士総合運動公園陸上競技場
 上段=通過タイム、下段=区間タイム ●=区間新 ▲=区間タイ

チーム名	1区 (4.1km)	2区 (6.8km)	3区 (3.3km)	4区 (4.4km)	5区 (10.5km)	6区 (6km)	7区 (8.3km)	総合成績 (43.4km)
①名城大	谷本 七星① (1) 12.49	高松智美ムセンビ④ (1) 34.21 (6) 21.32	井上 葉南④ (1) 44.41 (1) 10.20	山本 有真③ (1) 59.07 (1) 14.26	和田 有菜④ (1) 1.32.39 (3) ●33.32	増渕 祐香② (1) 1.52.29 (2) 19.50	小林 成美③ (1) 2.22.24 (1) 29.55	2.22.24
②大東文化大	今井 彩月③ (8) 13.17	藤原 唯奈① (9) 35.06 (12) 21.49	四元 桃奈① (11) 45.54 (13) 10.48	鈴木日菜子① (13) 1.01.31 (15) 15.37	鈴木 優花④ (3) 1.34.38 (2) ●33.07	蟹江きりの① (3) 1.54.53 (4) 20.15	山賀 瑞穂③ (2) 2.25.22 (3) 30.29	2.25.22
③日本体育大	尾方 唯莉① (3) 13.03	山崎 りさ① (2) 34.28 (4) 21.25	嶋田 桃子① (2) 44.51 (2) 10.23	中村 朱里③ (2) 59.58 (2) 15.07	岡島 楓④ (4) 1.35.14 (9) 35.16	黒田 濤③ (4) 1.55.05 (3) 19.51	保坂 晴子② (3) 2.25.59 (5) 30.54	2.25.59
④立命館大	平岡 美帆③ (11) 13.21	村松 灯① (6) 34.49 (5) 21.28	御崎 舞④ (4) 45.22 (3) 10.33	中地こころ① (3) 1.00.38 (3) 15.16	吉蘭 菜④ (7) 1.36.28 (13) 35.50	飛田 凜香③ (6) 1.55.59 (1) ▲19.31	小林 朝② (4) 2.26.19 (2) 30.20	2.26.19
⑤松山大	田川 友貴④ (2) 12.56	西山未奈美④ (3) 34.31 (7) 21.35	大内 もか④ (3) 45.15 (10) 10.44	鈴木 樺連④ (4) 1.00.43 (8) 15.28	小松 優衣③ (5) 1.35.29 (5) 34.46	安田 萌加① (5) 1.55.53 (7) 20.24	大谷菜南子④ (5) 2.26.24 (4) 30.31	2.26.24
⑥拓殖大	山下 花音② (16) 13.34	牛 佳慧③ (13) 35.13 (8) 21.39	八田ももか④ (10) 45.53 (6) 10.40	門脇 奈穂① (12) 1.01.29 (14) 15.36	不破聖衣来① (2) 1.33.52 (1) ●32.23	梅木 優子② (2) 1.54.28 (11) 20.36	伊井萌佑子② (6) 2.26.33 (14) 32.05	2.26.33
⑦城西大	森尻 真優③ (14) 13.24	木村 桜華① (12) 35.12 (11) 21.48	村上 礼乃② (9) 45.47 (4) 10.35	渡辺 光美③ (8) 1.01.17 (10) 15.30	福岡 摩耶③ (10) 1.36.48 (11) 35.31	伊藤 柚葉② (7) 1.57.07 (6) 20.19	藤村 華純③ (7) 2.28.09 (3) 31.02	2.28.09
⑧全日本選抜	三池 瑠衣(M2) (大阪大) (12) 13.22	中島 紗弥④ (鹿屋体育大) (5) 34.45 (3) 21.23	保科 琴音③ (新潟医療福祉大) (5) 45.35 (15) 10.50	鯨井 聖美① (東海大) (9) 1.01.18 (7) 15.43	川田 愛佳② (東京農工大) (8) 1.36.33 (8) 35.15	小林 遥香② (玉川大) (9) 1.57.12 (12) 20.39	長岡 あず① (兵庫大) (8) 2.28.15 (7) 31.03	2.28.15
⑨大阪芸術大	城谷 桜子④ (20) 13.43	北川 星瑠② (7) 35.04 (1) 21.21	日吉 鈴菜③ (7) 45.45 (7) 10.41	鈴木 杏奈② (6) 1.01.06 (6) 15.21	古原 夏音② (9) 1.36.35 (10) 35.29	宮永 光唯④ (8) 1.57.07 (10) 20.32	古賀 華実③ (9) 2.28.21 (9) 31.14	2.28.21
⑩大阪学院大	依田 来巳① (17) 13.37	小林舞妃留② (15) 35.20 (9) 21.43	袴田 華帆③ (18) 46.20 (18) 11.00	室伏 香音④ (15) 1.01.44 (7) 15.24	永長 里緒① (6) 1.36.20 (4) 34.36	入江ちはゆ④ (10) 1.57.16 (15) 20.56	野崎 光③ (11) 2.29.55 (10) 31.39	2.28.55
⑪関西外国語大	山岸みなみ② (7) 13.16	三輪南菜子① (10) 35.07 (13) 21.51	長谷川菜摘④ (12) 45.55 (13) 10.48	小椋 美海④ (11) 1.01.27 (12) 15.32	西出 優月④ (14) 1.37.46 (18) 36.19	武田 芽依① (14) 1.58.03 (5) 20.17	矢尾 桃子③ (11) 2.29.14 (8) 31.11	2.29.14
⑫東北福祉大	小松 莉菜③ (10) 13.21	金澤 佳子③ (4) 34.42 (1) 21.21	八織 奈央④ (6) 45.43 (19) 11.01	武内わかな③ (7) 1.01.14 (11) 15.31	田中 杏梨④ (11) 1.36.57 (12) 35.43	植田 真央④ (11) 1.57.37 (13) 20.40	小高 夏綺④ (12) 2.29.36 (13) 31.59	2.29.36
⑬東洋大	下里 芽依② (4) 13.11	萩原 結① (8) 35.04 (2) 21.53	後藤 藍子③ (8) 45.46 (8) 10.42	佐竹 結衣③ (5) 1.01.03 (5) 15.17	立迫 望美② (12) 1.37.00 (14) 35.57	渡江 早紀④ (13) 1.58.00 (1) 21.00	江口 春姫① (13) 2.30.04 (13) 32.04	2.30.04
⑭佛教大	青松 真那④ (15) 13.30	芝本 涼花④ (14) 35.14 (10) 21.44	中川 瑞穂② (14) 46.11 (16) 10.57	久木 柚奈③ (10) 1.01.27 (3) 15.16	原田 萌花③ (13) 1.37.31 (15) 36.04	清水ひなた② (12) 1.57.59 (9) 20.28	高田 陽織① (14) 2.30.06 (15) 32.07	2.30.06
⑮関西大	木下 茜③ (22) 13.53	伐栗 夢七① (20) 36.29 (18) 22.36	櫻原 真未④ (21) 47.39 (22) 11.10	石松 空① (20) 1.03.33 (19) 15.54	柳谷 日菜④ (17) 1.38.41 (7) 35.08	近藤 来那② (17) 1.59.44 (17) 21.03	飯島 果琳② (15) 2.31.26 (11) 31.42	2.31.26
⑯中京学院大	金子 藍① (21) 13.48	近藤 萌江② (16) 35.50 (16) 22.02	安藤みなみ① (17) 46.49 (16) 10.59	加藤 若葉② (16) 1.02.21 (12) 15.32	松本 七海③ (18) 1.38.55 (20) 36.34	加藤 愛結② (16) 1.59.22 (8) 20.27	稲葉 夢香② (16) 2.31.31 (16) 32.09	2.31.31
⑰順天堂大	小暮 真緒① (5) 13.12	垣内 瑞希② (11) 35.10 (15) 21.58	甲本 まお④ (13) 45.56 (11) 10.46	鬼頭このみ① (14) 1.01.42 (18) 15.46	山際 夏芽① (15) 1.37.49 (16) 36.07	座間 菜④ (15) 1.58.59 (18) 21.10	松本 奈々④ (17) 2.32.16 (24) 33.17	2.32.16
⑱中央大	鈴木梨々亜② (18) 13.42	島貫恵梨子① (19) 36.26 (20) 22.44	大塚 明実① (22) 47.42 (23) 11.16	風間 歩佳② (8) 1.03.11 (9) 15.29	高野 美穂① (19) 1.39.41 (19) 36.30	大塚 沙弥④ (19) 2.00.23 (14) 20.42	加藤 礼菜② (18) 2.32.34 (17) 32.11	2.32.34
⑲京都産業大	小濱 麻央② (24) 14.29	堀尾 咲月④ (23) 36.55 (17) 22.26	逸見 亜優③ (20) 47.37 (8) 10.42	大塚 小春③ (21) 1.03.39 (21) 16.02	若井 莉央④ (16) 1.38.38 (6) 34.59	中本 香② (18) 2.00.11 (23) 21.33	渡邊 香澄③ (19) 2.33.08 (22) 32.57	2.33.08
⑳福岡大	徳留 舞① (13) 13.23	黒石 瑠香③ (18) 36.22 (23) 22.59	岡本亜依里③ (18) 46.59 (5) 10.37	塚本 真夕③ (22) 1.04.07 (24) 17.08	笠原 奈月② (21) 1.40.20 (17) 36.13	板平 遥香② (20) 2.01.31 (19) 21.11	花房 百伽④ (20) 2.33.46 (18) 32.15	2.33.46
㉑京都光華女子大	谷口 萌優① (23) 13.57	渡辺 望美① (22) 36.42 (21) 22.45	奥田 真実② (19) 47.28 (11) 10.46	溝内 里紗③ (19) 1.03.27 (20) 15.59	橋本はなえ④ (20) 1.40.13 (21) 36.46	吉村 唯② (21) 2.01.37 (21) 21.24	藤田 百詠① (21) 2.34.01 (19) 32.24	2.34.01
㉒亜細亜大	広瀬はるか③ (6) 13.15	高橋 朱穂① (17) 35.55 (19) 22.40	河嶋菜々子② (17) 46.58 (20) 11.03	寺崎 梨華② (17) 1.03.05 (22) 16.07	金井美風海② (22) 1.41.01 (23) 37.56	黒江 彩聖① (22) 2.02.17 (20) 21.16	小美濃あい③ (22) 2.35.00 (20) 32.43	2.35.00
㉓筑波大	澤井 柚葉② (19) 13.42	櫻原 沙紀② (21) 36.40 (22) 22.58	兵藤 柚花② (23) 47.44 (21) 11.04	本庄悠紀奈③ (23) 1.04.27 (23) 16.43	高橋 香澄④ (23) 1.41.28 (22) 37.01	阿部 風薫③ (23) 2.03.32 (24) 22.04	西永 菜津④ (23) 2.36.17 (21) 32.45	2.36.17
㉔静岡県選抜	齋藤 みう① (日本体育大) (9) 13.19	中安 若葉② (中京学院大) (24) 37.10 (24) 23.51	山本 菜緒④ (常葉大) (24) 48.51 (24) 11.41	朝日 春瑠④ (日本体育大) (24) 1.04.31 (16) 15.40	吉田 千紘④ (新潟医療福祉大) (24) 1.45.06 (24) 40.35	米原 千尋② (大阪学院大) (24) 2.06.32 (22) 21.26	田中 毬愛② (大阪学院大) (24) 2.39.45 (23) 33.13	2.39.45
過去最高記録	高見澤安珠 (松山大) 12.42(16年)	五島莉乃(中央大) 和田有菜(名城大) 20.40(19年・20年)	御崎 舞 (立命館大) 10.07(19年)	山本 有真 (名城大) 13.55(19年・20年)	関谷 夏希 (大東文化大) 34.17(17年)	増渕 祐香 (名城大) 19.31(20年)	小林 成美 (名城大) 28.26(20年)	名城大 2.21.38 (2020年)

2021年日本学生新記録章贈与式を開催

1. 日時 令和3年12月4日(土) 14:00～14:20
2. 場所 TKP新宿カンファレンスルーム

2021年に日本新記録・日本学生新記録を樹立した以下の選手及び指導者に対し、日本学連・松本会長より、章記と報奨金が贈呈されました。

日本新記録

●泉谷 駿介(いずみや しゅんすけ) 順天堂大学

男子110mH: 13秒06 (2021年6月27日)

第105回日本陸上競技選手権大会

指導者: 越川 一紀(こしかわ かずのり) 様

順天堂大学陸上競技部・コーチ

●三浦 龍司(みうら りゅうじ) 順天堂大学

男子3000mSC: 8分09秒92 (2021年7月30日)

第32回オリンピック競技大会

指導者: 長門 俊介(ながと しゅんすけ) 様

順天堂大学陸上競技部・男子駅伝監督

日本学生新記録

●イエゴン・ヴィンセント 東京国際大学

男子5000m: 13分15秒15 (2021年5月9日)

第287回日本体育大学長距離競技会

指導者: 中村 勇太(なかむら ゆうた) 様

東京国際大学駅伝部・コーチ

●伊藤 陸(いとう りく) 近畿大学工業高等専門学校

男子三段跳: 17m00 (2021年9月19日)

天皇賜盃第90回日本学生陸上競技対校選手権大会

指導者: 松尾 大介(まつお だいすけ) 様

近畿大学工業高等専門学校陸上競技部・監督

●幸長 慎一(ゆきなが しんいち) 四国大学

男子円盤投: 60m69 (2021年5月29日)

第2回徳島県チャレンジ記録会

指導者: 林 英司(はやし ひでし) 様

四国大学陸上競技部・コーチ

●ワンジク・チャールズ・カマウ 武蔵野学院大学

男子10000m: 27分18秒89 (2021年11月13日)

第292回日本体育大学長距離競技会

指導者: 坂田 和(さかた かず) 様

武蔵野学院大学陸上競技部・コーチ

●小林 成美(こばやしなるみ) 名城大学

女子10000m: 31分22秒34 (2021年7月10日)

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2021・網走大会

指導者: 米田 勝朗(よねだ かつろう) 様

名城大学女子駅伝部・監督

●道下 美槻(みちした みづき) 立教大学

女子1500m: 4分12秒72 (2021年7月17日)

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2021・千歳大会

指導者: 中村 嘉孝(なかむら ひろたか) 様

立教大学陸上競技部・女子駅伝監督

●福岡大学

伊藤 彩香(いとう あやか)

兒玉 芽生(こだま めい)

渡邊 輝(わたなべ きらり)

城戸 優来(きど ゆうき)

女子4×100mR: 44秒51 (2021年9月18日)

天皇賜盃第90回日本学生陸上競技対校選手権大会

指導者: 信岡沙希重(のぶおか さきえ) 様

福岡大学陸上競技部・コーチ

●吉村 玲美(よしむら れいみ) 大東文化大学

女子3000mSC: 9分41秒43 (2021年9月19日)

天皇賜盃第90回日本学生陸上競技対校選手権大会

指導者: 外園 隆(ほかぞの たかし) 様

大東文化大学陸上競技部・監督



公益社団法人日本学生陸上競技連合

第50回理事会 議事録

1. 開催された日時

令和3年12月4日(土)14時30分から16時25分

2. 開催された場所

T K P 新宿カンファレンスセンター4D

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数 16名

(出席)有吉 正博、植田 恭史、片平 誠人、
蒲原 一之、木下 澄雄、工藤 洋治、
黒須 雅弘、三條 俊彦、障子 恵、
杉山 喜一、関根 春幸、鶴崎 健一、
永井 純、長澤 光雄、日隈 広至、
外園 隆、松本 正之

(出席監事)細萱 智大

(欠席)岡崎 朋美、伊東 輝雄、栗山 佳也、
渋谷 俊浩、山下 誠

(欠席監事)山本 俊樹

(オブザーバー)阿保 雅行、岡田 晃、河野 匠

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：本年度普通会員について

第2号議案：令和4年度主要事業日程案について

第3号議案：普通会員の資格に関する規程改定について

第4号議案：令和4年～5年度役員候補選出会議の構成メンバー及び役員候補選出スケジュールについて

第5号議案：日本学生ハーフマラソン選手権大会について／日本学生女子ハーフマラソン選手権大会について／日本学生20km競歩選手権大会について

第6号議案：第31回 FISU WORLD UNIVERSITY GAMES (2021/成都)について
・日本代表選手選考要項
・日本学生陸上競技個人選手権大会要項

第7号議案：2022年度以降の「陸上競技研究」の発行について

第8号議案：2021年記録年鑑発行について

第9号議案：令和4年学生役員候補者について

第10号議案：令和3年度以降の特定費用準備資金計画について

第11号議案：就業規則第36条(定年)細則の制定について

第12号議案：その他

【報告事項】

①会務報告について

②各主催駅伝大会について(出場枠 他)

・第34回出雲駅伝

・第40回杜の都駅伝

・第54回全日本大学駅伝

・2022富士山女子駅伝

③第67回指導者会議について

④その他

6. 議事の経過及びその結果

(1)定足数の確認

会に先立ち、大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

(2)議長及び議事録署名人の選出

松本正之の会長が議長となり、本会議の開会を宣した。

議事録署名人は定款33条に基づき、松本正之の会長、有吉正博副会長、細萱智大監事となった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案：本年度普通会員について

永井純専務理事より、資料に基づき本年度普通会員(11/30現在)を承認することについて提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案：令和4年度主要事業日程案について

永井純専務理事より、資料に基づき令和4年度主要事業日程の承認について提案があった。

競技会・社員総会・理事会の日程はほぼ例年通りであるが、昨年度の開催が延期となったFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)(以下WUG)が6月26日～7月5日(陸上競技は6月30日～7月5日)に開催されるにあたり選手名簿

の提出期限が2ヵ月前の4月25日頃になるため、2022日本学生陸上競技個人選手権大会 兼 WUG 選考会とし、例年の6月ではなく4月15日～17日の開催とする。男女10000mと男女混成競技を加え、今回に限り学部卒1年目・院修了1年目の選手も選考対象とする。選手権と選考会の二本立てとなるため開催の工夫が必要になる。また2022年3月のハーフマラソン及び競歩はWUG成都の選考会、2023年3月のハーフマラソン及び競歩はWUGエカテリブルグの選考会となる。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案：普通会员の資格に関する規程改定について

永井純専務理事より、資料3に基づき「普通会员の資格に関する規程」改定の承認について提案があり、大西清司事務局長より説明があった。

障子恵総務委員長、岡田晃総務副委員長、河野匠総務副委員長、日本陸連担当者として陸協登録について会議を行い、現行の規程で認められていなかった出身中学校の所在地がある都道府県を選択できるように準備を進めることになった。また「出身」ではなく「卒業した」という文言を使用することで理解の統一を図る。本日の日本学連理事会で承認を得たのち12月16日の日本陸連理事会においても承認を得ることができれば、2022年度登録から運用される。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案：令和4年～5年度役員候補選出会議の構成メンバー及び役員候補選出スケジュールについて

永井純専務理事より、資料に基づき令和4年～5年度役員候補選出会議の構成メンバー及び役員候補選出スケジュールを承認することについて提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案：日本学生ハーフマラソン選手権大会について／日本学生女子ハーフマラソン選手権大会について／日本学生20km競歩選手権大会について

永井純専務理事から、資料に基づき、日本学生ハーフマラソン選手権大会及び日本学生女子ハーフマラソン選手権大会、日本学生20km競歩選手権大会

開催の承認について提案があった。3大会についてはすべてWUG日本代表選手選考競技会となるため、今大会に限り2021年度大学卒業予定者及び大学院修了予定者も代表選手選考の対象者とする。

日本学生ハーフマラソン選手権大会は、1500名を超えないエントリー数にすること、申込人数に対して棄権する人数が多すぎると指摘を受けていることを受け、今大会は標準記録を設定することとする。日本学生女子ハーフマラソン選手権大会は、コロナ対策の一環で招待選手に係る経費削減について松江市から要望がきている。そのため、地区学連推薦を2名から1名へ変更、5000mの基準記録を引き上げたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案：第31回FISU WORLD UNIVERSITY GAMES (2021/成都)について

- ・日本代表選手選考要項
- ・日本学生陸上競技個人選手権大会要項

永井純専務理事より、資料に基づきWUG日本代表選手選考要項及び2022日本学生陸上競技個人選手権大会(以下、個人選手権)要項の承認について提案があった。

選考競技会には学部卒1年目・大学院修了1年目の卒業生も出場できることとし、男女ハーフマラソン・男女競歩以外の種目は個人選手権で選考する。そのため、個人選手権では今年に限り男女10000mと男女混成競技を加える。また参加申し込みの3月時点の高校3年生(4月新入生)にも参加資格があるため、地区学連から各大学に周知を図るようにする。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

この際、以下の通り補足及び質疑応答があった。(三條俊彦理事) WUG選手選考要項には「大学院修了1年目の卒業生」と記載があるが、資料5と資料6では「大学院修了予定者」となっているのは何故か。

(永井純専務理事) ハーフマラソンと20km競歩は3月開催で卒業前のため「大学院修了予定者」としている。

(大西清司事務局長) 個人選手権参加標準記録(案)注釈の「3000m SC、5000m、10000mは決勝1組で実施のため、ターゲットナンバーを導入する。」

に10000mWを追記する。

(日隈広至理事) 個人選手権は4月の新入生も対象になるということだが、2022年度登録をする前にエントリーをするということか。また大学によっては3月時点では新入生として扱えない大学もあるがどのように対応するのか。

(永井純専務理事) 今後検討する。

(関根春幸常務理事) 3月時点では2022年度登録前にエントリーをしてもらい、個人選手権開催前に登録を終わらせてもらう方向で調整している。

第7号議案：2022年度以降の「陸上競技研究」の発行について

永井純専務理事より、資料に基づき2022年度以降の「陸上競技研究」の発行について、現在年4冊発行であるところを年3冊発行に変更することの承認について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第8号議案：2021年記録年鑑発行について

永井純専務理事より、資料に基づき2021年記録年鑑発行について提案があった。

例年3月に学生役員で校正作業を行うが、今回はWUGのエントリー作業と重なるため記録年鑑のための作業が難しいこと、各種データベースが充実し、紙ベースでの発行の重要性が薄れていることなどから、日本学連からの冊子の発行を取りやめることを検討したい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第9号議案：令和4年学生役員候補者について

永井純専務理事より、資料に基づき日本学連常任幹事の承認について提案があった。

山崎るな(やまざき・るな 順天堂大学2年)より自己紹介があり、審議の結果、承認された。その上で学生役員候補者一覧の一括承認について重ねて提案があり、審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第10号議案：令和3年度以降の特定費用準備資金計画について

大西清司事務局長より、資料に基づき令和3年度以降の特定費用準備資金計画の承認について提案があった。

特定費用準備資金計画については、将来の公益目的事業の実施に向けて積み立てと取り崩しを計画

的に明確にするものであり、規程に従い理事会の承認を必要とするものである。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

この際、以下の通り補足及び質疑応答があった。(松本正之会長) 公益法人とは正に名の通り公の利益になる業務を行っていることから、税制で優遇を受けている。そのため、利益を出して一定を超えた内部留保や遊休資産とすることはできない。公益目的事業を行っているという自覚をもって活動していく必要がある。

第11号議案：就業規則第36条(定年)細則の制定について(資料13)

永井純専務理事より、資料に基づき就業規則第36条(定年)細則の制定の承認について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第12号議案：その他

永井純専務理事より日本学生陸上競技対校選手権大会(以下、日本インカレ)の開催日程について、運営や審判員の確保が困難であることから3日間開催を基本としたい旨確認があり、異論なしとされた。

【報告事項】

①会務報告について

永井純専務理事より、資料に基づき前回理事会以降の職務報告について報告があった。

3月開催のハーフマラソン・競歩の各大会は、新型コロナウイルス感染症の状況によっては直前で中止ということもあり得る。その場合はWUGの選手選考について考え直す必要がある。

②各主催駅伝大会について(出場枠 他)

永井純専務理事より、資料に基づき各主催駅伝について(出場枠 他)報告があった。

・第34回出雲駅伝

・第40回杜の都駅伝：競技力向上を目的として、成績枠と基本枠の割り当て方法を変更する。

・第54回全日本大学駅伝

・2022富士山女子駅伝：昨年度は取りやめた選抜チームを復活させる。なお、本事項について以下の通り補足及び質疑応答があった。

(工藤洋治理事) 次回大会の出場枠について、出雲駅伝の「関東超過分」という表記と、全日本大学駅

伝の「超過/関東超過分」という表記とで揺れているので、統一してはどうか。

(永井純専務理事) そのようにする。

③第67回指導者会議について

阿保雅行指導者会議運営委員長より、資料に基づき第67回指導者会議について報告があった。第67回指導者会議はコンプライアンス研修会と位置付けて開催することを検討している。弁護士である工藤洋治理事から助言を受けたり、演者に快く引き受けてもらったりして、準備を進めているところである。

④その他

永井専務理事より、日本陸連から功労章と秩父宮賞の推薦依頼があったことについて、例年、会長・副会長・専務理事で協議をして人選をしているため、今回も一任いただきたい旨の報告があった。

大西清司事務局長より、学連登録の際の都道府県選択について報告があった。

日本陸連との登録制度検討委員会の中で、大学生登録者が都道府県を必ず選択しなければならない現在の制度を変えていく必要性を議論している。

報告の後、以下の通り補足・質疑応答があった。(岡田晃総務副委員長) 大学生登録者の都道府県選択が必須かどうかについては議論が始まったばかりである。もし都道府県陸協の登録が必須でなくなると記録公認の手続きが煩雑になるが、日本陸連で一斉にシステムを変更するために動き出している。

(木下澄雄理事) 2022年度から運用されるのか。

(岡田晃総務副委員長) 2022年度登録から運用されるのは「卒業した中学校の所在地を選択できるようになる」という部分である。「都道府県陸協の選択が必須でなくなる」ことは議論中である。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時25分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料

「普通会員の資格に関する規程」改定について

(令和3年12月4日)

現行規定	改定案
(位置づけ) 第5条 普通会員は、この法人への入会手続きを完了することによって、日本陸連登録会員となる。また、同時に、次項により選択する日本陸連加盟団体である都道府県陸上競技協会(以下、「陸協」という。)登録会員となる。 2 普通会員は、陸協のうち、次の各号の要件を満たす陸協を1つ選択する。 (1) 出身高等学校、出身中等教育学校又は3年次まで在籍した高等専門学校の所在地にある陸協 (2) 在籍している学部・学科等の所在地にある陸協 (3) 住居地にある陸協	(位置づけ) 第5条 普通会員は、この法人への入会手続きを完了することによって、日本陸連登録会員となる。また、同時に、次項により選択する日本陸連加盟団体である都道府県陸上競技協会(以下、「陸協」という。)登録会員となる。 2 普通会員は、陸協のうち、次の各号の要件を満たす陸協を1つ選択する。 (1) <u>卒業した中学校、卒業した義務教育学校又は前期課程修了時まで在籍した中等教育学校の所在地がある都道府県の陸協</u> (2) <u>卒業した高等学校、卒業した中等教育学校又は3年次まで在籍した高等専門学校の所在地がある都道府県の陸協</u> (3) <u>在籍している学部・学科等の所在地にある陸協</u> (4) <u>住居地にある陸協</u>

(経緯)と(今後の流れ)

上記現行規程は、過去において、日本陸連との間で取り決めた話であると推測、現在の3つの条件にしぼる必要性は無いと判断。(出身高校、大学所在地、居住地)

陸協の選択は、出身高校の所在地に加え、出身中学の所在地も選択できるよう、次年度の登録から可能になるよう規程改定の準備を進める。

1. 11月、日本陸連、日本学連総務委員会、事務局で原案を策定。
2. 2021年12月4日開催の日本学連理事会において承認
3. 2021年12月16日開催の日本陸連理事会において承認
4. 2022年度の登録より運用

□は日本学連主催競技会 ※は参考競技会

年	月	日	事業名	会場
2022 年	4月	15日(金)～17日(日)	2022日本学生陸上競技個人選手権大会/WUG選考会	レモンガスタジアム 平塚(神奈川県)
		18日(月)予定	理事会(WUG選考)	リモート
	5月	14日(土)	理事会(定時)	東京(予定)
	6月	4日(土)～5日(日)	※106回日本選手権混成/U20日本選手権	秋田
		9日(木)～12日(日)	※106回日本陸上競技選手権/U20日本選手権	ヤンマースタジアム長居
		18日(土)	第14回定時社員総会/理事会	東京(予定)
	7月	6/26(日)～7/7(木) 陸上:6/30-7/5	FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021成都)	四川省/成都
		1日(金)～3日(日)	秩父宮賜杯西日本学生陸上競技対校選手権大会(共催)	松山
		15日(金)～24日(日)	※World Athletics Championships Oregon 2022	USA/ユージン
	8月	調整中	北日本学生陸上競技対校選手権大会(共催)	
		3日(水)～7日(日)	※全国高校陸上	徳島
		6日(土)予定	秩父宮賜杯第62回実業団・学生対抗陸上競技大会 (2021オールスターナイト陸上)	レモンガスタジアム 平塚(神奈川県)
	9月	8日(木)	理事会(定時)	京都
		9日(金)～11日(日)	天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権大会	京都(西京極)
		10日(土)～25日(日)	※第19回アジア大会	中国/杭州
	10月	6日(木)～10日(月)	※国民体育大会	宇都宮
		10日(月/祝=スポーツの日)	第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲
		30日(日)	第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	仙台
11月	6日(日)	秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会	名古屋/伊勢	
12月	17日(土)	理事会(定時)	東京	
	30日(金)	2022全日本大学女子選抜駅伝競走	富士市/富士宮市	
2023 年	1月			
	2月	調整中	第106回日本選手権大会クロスカントリー競走(共催)	福岡
	3月	4日(土)	理事会(定時)	東京(予定)
		4日(土)	第68回指導者会議	東京
		12日(日)	第26回日本学生ハーフマラソン選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2023/Ekaterinburg)代表選考競技会	立川
		19日(日)	第17回日本学生20km競歩選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2023/Ekaterinburg)代表選考競技会	能美
		19日(日)	第26回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2023/Ekaterinburg)代表選考競技会	松江

【地区インカレ情報】

北海道IC：未定()で調整中) 東北IC：(6/3～6/5北上で調整中)
 北信越IC：(5/14, 5/15 福井で調整中) 関東IC：未定(5/19～22で調整中) 東海IC：未定()で調整中)
 関西IC：(5/26～29 京都で調整中) 中国四国IC：未定()で調整中) 九州IC：(5/20～22 博多の森で調整中)

【参考】

	期日	競技会	場所
2023年	8/9～19	ワールドユニバーシティゲームズ	Ekaterinburg.
	8/19～27	World Athletics Championships	Budapest
	9/	日本IC	首都圏
2024年	7/26～8/11	Olympic games	Paris
	9/	日本IC	エリア?

資料

日本学連令和4・5年度役員候補選出会議メンバー（案） （学識経験者等推薦名簿作成について）

役員候補選出会議規程により下記7名を推薦します。

代表理事（2名）	松本 正之（会長） 有吉 正博（副会長）
理事（2名）	永井 純（専務理事） 日隈 広至（関東学連選出理事）
正会員（2名）	國枝 秀世（東海学連会長） 熊谷 匡昭（関西学連副会長）
事務局長	大西 清司

※地区学連推薦理事については、各学連でしかるべき手続きをとり役員候補選出会議に推薦する（合計11名以内）
北海道学連（1名）、東北学連（1名）、北信越学連（1名）、関東学連（3名）、東海学連（1名）、関西学連（2名）、
中四国学連（1名）、九州学連（1名）

資料

第25回日本学生ハーフマラソン選手権大会 兼 FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会 要項

- 主催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 期 日 2022年3月13日（日）
- コース 陸上自衛隊立川駐屯地滑走路、国営昭和記念公園とその外周道路（IAAF認証コース）
- 競技種目 男子ハーフマラソン
- 参加資格 2021年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員であって、2020年1月1日から2022年1月9日までの期間に標準記録を突破した者。
10000m：32分00秒00 ハーフマラソン：1時間10分00秒
- 競技規則 2021年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
- 参加料 1) 1名につき3000円
2) 参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。
- 申込方法 1) 参加大学は配布された参加申込フォームに必要事項を入力し、申込期日（各地区学生陸上競技連盟が別に定める）までに各地区学生陸上競技連盟へ申し込むこと。
また、参加料は申し込みの際に納入すること。
2) 地区学生陸上競技連盟は参加大学の書類を取りまとめ、2022年1月16日（日）15時00分までに日本学生陸上競技連合に申し込むこと。
- 表彰 第1位から第3位までの入賞者には賞状及びメダルを、第4位から第8位までの入賞者には賞状を贈与する。
- その他 1) 本大会において公認される種目は、ハーフマラソンおよび20kmである。
2) 本大会は立川市、他が主催する「立川シティハーフマラソン2022」と併催される。
3) 競技中に発生した傷害・疾病等についての応急処置は主催者にて行うが、それ以後の責任は一切負わない。
ただし、2021年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
4) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。尚、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
5) 大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者及び主催者が承認した第三者が、大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。
6) 本大会で上位入賞した者には、2023年に開催予定の東京マラソン2023の準エリートの部の参加権を与えることがある。
7) FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考要項に基づき、本大会に限り2021年度大学卒業予定者及び大学院修了予定者も代表選手選考の対象者とする。

資料

第25回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

兼 FISUワールドユニバーシティゲームス(2021/成都) 日本代表選手選考競技会 要項

- 主催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 期日 2022年3月20日(日)
- コース まつえレディースハーフマラソンコース(IAAF認証コース)
- 競技種目 女子ハーフマラソン
- 参加資格 2021年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員
- 競技規則 2021年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
- 参加料 1) 1名につき2000円
2) 参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。
3) 10. 選手招待に該当する競技者については、参加料を徴収しない。
- 申込方法 1) 参加大学は配布された参加申込フォームに必要事項を入力し、申込期日(各地区学生陸上競技連盟が別に定める)までに各地区学生陸上競技連盟へ申し込むこと。
また、参加料は申し込みの際に納入すること。
2) 地区学生陸上競技連盟は参加大学の書類を取りまとめ、2022年2月1日(火)までに日本学生陸上競技連合に申し込むこと。
- 表彰 第1位から第3位までの入賞者には賞状及びメダルを、第4位から第8位までの入賞者には賞状を贈与する。
- 選手招待 今年度は以下の1)、2)または3)の条件を満たした競技者については、大会出場にかかる費用の一部をまつえレディースハーフマラソン実行委員会が負担する。但し、指定宿舎に宿泊しない場合、宿泊費は自己負担となる。
1) 基準記録A突破者：交通費及び宿泊費(前日1泊)
2) 地区学連推薦競技者(各地区学連1名以内)：交通費及び宿泊費(前日1泊)
3) 2)に該当しない競技者で、基準記録Bを突破した者：宿泊費(前日1泊)

種目	基準記録A	基準記録B	記録有効期間
ハーフマラソン	1時間15分00秒	1時間19分00秒	公認記録であれば時期は問わない
10000m	34分20秒0	35分30秒0	2021年1月1日から2022年1月31日まで
5000m	16分05秒0	16分50秒0	2021年1月1日から2022年1月31日まで

- その他 1) 本大会において公認される種目は、10km、及びハーフマラソンである。
2) 今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、参加人数を130人に制限する。エントリー終了後、記録上位者から順に出場選手を決定の上出場の可否を地区学生陸上競技連盟から各大学に2月3日(木)までに連絡する。基準記録の優先順位はハーフマラソン、10000m、5000mとする。
3) 本大会は松江市、他が主催する「まつえレディースハーフマラソン」と併催される。宿泊斡旋希望の有無などについては、「宿泊等申込書」に記入し、参加申込の際に併せて提出すること。【指定及び斡旋宿舎：松江ニューアーバンホテル】
4) 競技中に発生した傷害・疾病等についての応急処置は主催者にて行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2021年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
5) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。尚、取得した個人情報、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
6) 大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者及び主催者が承認した第三者が、大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。
7) FISUワールドユニバーシティゲームス(2021/成都)日本代表選手選考要項に基づき、本大会に限り2021年度大学卒業予定者及び大学院修了予定者も代表選手選考の対象者とする。

資料

第16回日本学生20km競歩選手権大会

兼 FISUワールドユニバーシティゲームス(2021/成都) 日本代表選手選考競技会 要項

- 主催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 期日 2022年3月20日(日)
- コース 能美市営20kmコース(IAAF認証コース)
- 競技種目 男子20km競歩、女子20km競歩
- 参加資格 1) 2021年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員
2) 有効期間内に参加標準記録を突破した者。なお、参加標準記録及び有効期間は、第46回全日本競歩能美大会の要項を参照のこと。
- 競技規則 2021年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
- 参加料 1) 1名につき3500円
2) 参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。

8. 申込方法 第46回全日本競歩能美大会の要項に従って申し込むこと。
9. 表彰 優勝者には日本学生陸上競技連合杯、メダル及び賞状を、第2位、第3位にはメダル及び賞状を、第4位から第8位までには賞状をそれぞれ贈与する。
10. その他
- 1) 本大会は日本陸上競技連盟、他が主催する「第46回全日本競歩能美大会」と併催される。
 - 2) 競技中に発生した傷害・疾病等についての応急処置は主催者にて行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2021年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
 - 3) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。尚、取得した個人情報、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
 - 4) 大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者及び主催者が承認した第三者が、大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。
 - 5) FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)日本代表選手選考要項に基づき、今大会に限り2021年度大学卒業予定者及び大学院修了予定者も代表選手選考の対象者とする。

資料

FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考について (ユニバーシアード競技大会から改称) 2022年6月26日～7月7日

日本学生陸上競技連合(以下、日本学連)としての選考基本方針

FISUワールドユニバーシティゲームズ競技大会(2021/成都)(以下、本大会)の選手団編成方針は、日本オリンピック委員会(JOC)が定めた派遣枠を基に、本大会でメダル獲得または入賞が期待される競技者を選考し編成する。

◆大会日程(開催地)

2022年6月26日～7月7日 (中国、成都市) <陸上競技6月30日～7月5日>

I. 選考競技会

1. ハーフマラソン 第25回日本学生ハーフマラソン選手権大会(東京都・立川市) 2022年3月13日
第25回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(島根県・松江市) 2022年3月20日
 2. 競歩 第16回日本学生20km競歩選手権大会(石川県・能美市) 2022年3月20日
 3. 上記以外の種目 2022年日本学生陸上競技個人選手権大会(※)(神奈川県・平塚市) 2022年4月15日～17日
- ※選考競技会としては、学部卒1年目・大学院修了1年目の卒業生も出場できるものとする(なお、個人選手権大会の順位においては、それらの者は除外する。)。また、10000m・混成競技の選考競技会を、同大会内において実施する。

II. 選考方法

基本条件

日本国籍を有しFISU(世界大学スポーツ連盟)が定める基本条件等を満たし、かつ、2021もしくは2022年度日本学連普通会員登録をしている競技者を選考対象とする(日本学連・普通会員の資格に関する規程参照)。ただし、日本国籍を有し海外の大学に留学をしている場合は日本学連普通会員登録がなくても選考対象とする。

今大会に限り、学部卒1年目、大学院修了1年目の卒業生も選考対象とする。

※選手の参加年齢条件は、FISUが定める18歳～26歳(1996年1月1日から2004年12月31日の間に生まれた者)である

選考基準

1. 以下(1)(2)の条件をいずれも満たした者を選考対象者とする。

なお、選考対象者の中から下記2・3に従いさらに選考をするので、以下(1)(2)の条件を満たした場合でも代表選手となるとは限らないことに留意されたい。

 - (1) 派遣標準記録有効期間内に、派遣標準記録(表1)を突破すること。
ただし、リレー種目について、メダル獲得可能性、関連する個人種目の選考状況、他のリレーの編成等を踏まえてリレーチームの編成・派遣を決定する場合は、個人としては(1)の条件を満たしていない競技者を選考対象者に加え、代表選手とすることがある。
 - (2) 前記Iの選考競技会において8位以上に入賞(※)すること。

(※)長距離種目および競歩については、前記基本条件を満たす者のうち上位8名以上とする。
ただし、以下①②のいずれかに該当する場合は、(2)の条件を要しないものとする。

 - ①既に(1)の条件を満たしている者が、WA関連の国際大会等または日本陸連の派遣大会に出場するため選考競技会に出場できない場合で、選考競技会のエントリー締切日の1週間前までに日本学連に指定の書式でその旨を届け出て、承認を得た場合。
 - ②日本国籍を有し海外の大学に留学をしている者が、同一種目の他の選考対象者よりも高い記録で(1)の条件を満たし、かつ、本人が2022年3月末日までに本大会への出場を希望する旨を日本学連に伝えた場合。

注) 男女ハーフマラソンおよび男子競歩については、過去の団体成績を踏まえ、選考競技会終了時点で上位3名を代表選手に内定した上で、他種目を含めた全体選考の際に、追加選考の有無を決定する。

- 同一種目において選考対象者が複数いる場合は、選考競技会において順位が上位の者を優先する。
ただし、同一種目において、上記1(2)本文に基づく選考対象者と、同ただし書きに基づく選考対象者がいる場合は、上記1(1)の突破記録等を勘案して、メダル獲得または入賞の可能性の観点から優先順位を決定する。
- JOCから陸上競技に割り当てられた全体の派遣枠数に達するまで、全種目の選考対象者の中から、本大会においてより上位を獲得することが期待される競技者から順に、代表選手として選考する。
なお、各種目のエントリー人数の上限はFISUの規定により、男女ハーフマラソンおよび男女競歩は最大5名、男女10000mは最大3名、他の種目は1種目2名以内と定められている。ある種目の代表選手となった競技者が、別種目について上記1の条件を満たしていないものの当該別種目でもメダル獲得または入賞が期待されるときには、当該別種目にもエントリーする可能性がある。
また、上記の手順により代表選手の選考を行った結果、全体の派遣枠数に達しなかった場合に、上記1の条件を満たさないものの本大会において入賞が期待される競技者がいるときは、当該競技者を代表選手として選考することができるものとする。
- 代表選手は、日本学連の理事会の承認を経て、JOC理事会にて正式決定する。

Ⅲ. 標準記録有効期間

	派遣標準記録 有効期間 (男子・女子共通)
ハーフマラソン(男子)	2021年1月1日～2022年3月13日
ハーフマラソン(女子)	2021年1月1日～2022年3月20日
競歩	2021年1月1日～2022年3月20日
一般種目(上記以外)	2021年1月1日～2022年4月17日

Ⅳ. その他

- 代表選手として決定した後も本大会までに故障などのために競技力を十分に発揮できないと強化委員会が判断した場合には代表を取り消す。その場合に、エントリー締切り前であるときは、別の競技者(同一種目とは限らない。)を代表選手として追加選考することがある。
- 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。また、代替の選考競技会の設定が困難な場合は、理事会の決定により、他の選考方法によって選考する場合がある。
- 今後、FISUによってワールドユニバーシティゲームズの開催条件や参加資格等に関する変更があった場合は、選考方法を変更する場合がある。
- 天災、その他の理由で本大会が延期となった場合は、内定を取り消す場合がある。

表1 第31回WUG(2021/成都)派遣標準記録

※過去3大会の6位相当平均(日本学生ランキング10位相当がこれを上回る場合は当該記録)を目安に設定

男子	種目	女子
10.35	100m	11.55
20.90	200m	23.65
46.50	400m	52.35
1:49.60	800m	2:03.20
3:45.0	1500m	4:20.0
13:45.0	5000m	15:50.0
28:30.0	10000m	33:30.0
1:04.00	ハーフマラソン	1:16.00
—	100mH	13.40
13.75	110mH	—
49.95	400mH	57.60
8:40.0	3000mSC	10:05.0
1:25.00	20kmW	1:36.00
—	4×100mR	—
—	4×400mR	—
2.20	走高跳	1.83
5.30	棒高跳	4.25
7.75	走幅跳	6.25
16.30	三段跳	13.25
19.40	砲丸投	16.70
59.00	円盤投	54.00
72.00	ハンマー投	64.00
77.00	やり投	56.00
—	七種競技	5500
7300	十種競技	—

別表① FISUの設定するエントリー資格記録

Entry standards

The entry standards for all events must be achieved between 1 January 2021 and the closing date for the submission of Individual Entries

Event	Men	Women	Event	Men	Women
Track events (times in hh:mm:ss.ms)			Field events (measure in m.cm)		
100m	10.60	12.00	High jump	2.15	1.70
200m	21.85	25.10	Pole vault	5.10	3.55
400m	49.00	56.00	Long jump	7.30	5.95
800m	1:51.00	2:10.00	Triple jump	15.00	12.80
1500m	3:50.00	4:31.00	Shot put	16.50	13.50
5000m	14:45.00	17:30.00	Discus	55.00	48.00
10000m	30:00.00	35:00.00	Hammer	60.00	59.00
20km walk	1:28.00	1:43.00	Javelin	72.00	48.00
Half marathon	1:10:00	1:22:00	Heptathlon		N/A
100/110m hurdles	14.00	13.45	Decathlon	N/A	
400m hurdles	53.00	63.05			
3000m steeplechase	9:00.00	11:00.00			

N/A – Non-Applicable for the Chengdu 2021 FISU World University Games

2022日本学生陸上競技個人選手権大会 兼 FISU

ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都 以下WUG) 日本代表選手選考競技会 要項(案)

2022 All Japan University Track&Field Challenge Meeting

1. 主催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
2. 後援 平塚市、平塚市教育委員会(予定)
3. 運営協力 関東学生陸上競技連盟、一般財団法人神奈川陸上競技協会(予定)
4. 期日 2022年4月15日(金)～17日(日)
5. 会場 レモンガススタジアム平塚(ハンマー投:柳島スポーツ公園陸上競技場)
6. 競技種目
 - 男子18種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mH、400mH、3000m S C、10000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
 - 女子18種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、100mH、400mH、3000m S C、10000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
 ※上記に加えて、WUG代表選手選考競技会として以下4種目を実施
10000m(男子・女子)、十種競技、七種競技
7. 競技実施日 別紙記載
8. 参加資格
 - 1) 2022年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員であって、2021年1月1日から2022年3月21日の期間に標準記録(別表)を突破した者。
 - 2) 学部卒1年目・大学院修了1年目の卒業生(ただし26歳以下で日本国籍を有する者)であって、2021年1月1日から2022年3月21日の期間に標準記録(別表)を突破しており、WUG日本代表選手として選考された場合は、出場の意思を有する者。
 - 3) 出場を希望する国外の大学生で本連合の承認を得た者。
※各大学1種目あたりの参加人数制限は設けない。
※個人の参加種目数の制限は設けない。
※全部または一部の種目にターゲットナンバー制を採用する場合がある。
9. 参加料 参加者1種目1名につき2700円(エントリーシステム利用料を含む)
※参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。
10. 申込方法
 - 1) 本大会は個人エントリーとなる。参加者は、日本学生陸上競技連合HPに掲載された参加申込フォームに必要事項を入力し、2022年3月14日(月)から2022年3月23日(水)までの期間に日本学生陸上競技連合へ申し込むこと。また、参加料は参加申込フォームに記載された手順に従い、申し込みの際に納入すること。
 - 2) 2022年1月1日～3月21日(月)の期間に出した記録については、記録が証明できるものを日本学生連事務局まで郵送すること。
11. 競技について
 - 1) 競技は2022年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。
 - 2) 競技に使用する用具は主催者側が用意したものを使用しなければならない。
但し、棒高跳用ボール及び投てき物は個人所有のものが使用できるが、投てき物は検査を受け、許可されたものとする。
12. 式典 開式: 4月15日(金) 競技開始前 閉式: 4月17日(日) 競技終了後
13. 表彰 優勝した競技者にはメダルと賞状、副賞を、第2位及び第3位に入賞した競技者にはメダルと賞状を授与する。第4位から第8位までの入賞者には賞状を授与する。
個人選手権の順位・入賞者の決定にあたっては卒業生は除外する。また、A決勝・B決勝を実施する場合には記録の如何に関わらずA決勝の順位が優先する。
ただし、10000m及び混成種目について表彰は実施しない。
14. ドーピングコントロール
 - 1) ドーピングコントロールテスト
ワールドアスレティックスアンチ・ドーピング規則および規程、もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。尚、本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液(或いは両方)の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。日本陸上競技連盟に登録していない外国人競技者も同様に従うこと。また、競技会時、ドーピング検査の対象となった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた学生証、社員証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを持参すること。
 - 2) TUE申請
禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例(TUE)”の申請を行わなければならない。
詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ(<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>)、又は日本アンチ・ドーピング機構ホームページ(<http://www.playtruejapan.org/>)および日本学生陸上競技連合HP(<http://www.iuau.jp/index.html/>)内の「知っておきたいアンチ・ドーピングの知識2022年版」を確認すること。
15. 個人情報の取り扱いについて
 - 1) 大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者及び主催者が承認した第三者が、大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒

体に掲載することがある。大会の映像は、主催者の許可なく、第三者がこれを使用すること（インターネット上において画像や動画を配信することを含む）を禁止する。

2)) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。尚、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。

16. その他

1) 本大会は、スポーツ振興基金助成金を受けて実施する。

2)) 競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側において行うが、それ以後の責任は一切負わない。但し、8. 参加資格1)の該当者は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているため、この保険が適用される場合がある。

3) 新型コロナウイルス感染症拡大予防の措置が必要な場合は、ガイドラインに沿って必要な対策を講じる。

17. 問合せ先

公益社団法人日本学生陸上競技連合 事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階

T E L : 03-5304-5542 F A X : 03-5304-5569 Eメール: juauj@joy.ocn.ne.jp

2022 個人選手権 兼 WUG 日本代表選手選考競技会 参加標準記録(案) 2021.12.1

参加人数目安	種目	男子			女子		
		2021 個人標準	2021 年ランキング	2022 個人標準	2021 個人標準	2021 年ランキング	2022 個人標準
50	100m	10.55	10.45	10.50	12.15	12.02	12.10
	200m	21.35	21.16	21.20	25.10	24.95	25.00
	400m	47.80	47.54	47.60	57.00	56.90	56.90
	800m	1.52.0	1.50.53	1.50.60	2.15.0	2.13.61	2.13.70
	1500m	3.53.0	3.47.71	3.47.80	4.34.0	4.30.34	4.30.50
TN30	5000m	14.10.0	13.46.62	13.47.00	16.20.0	16.10.68	16.10.00 ^㉔ [新入生のみ9.15.00 ^㉔]
	10000m	***	28.21.39	28.30.00 ^㉔ [13.47.00 ^㉔]	***	34.51.79	33.30.00 ^㉔ [16.10.00 ^㉔]
50	110mH	14.45	14.30	14.30			
	100mH				14.30	14.09	14.10
	400mH	52.00	51.93	52.00	1.01.50	1.01.93	1.01.90
TN20	3000mSC	9.15.0	8.53.37	8.53.40	11.10.0	10.49.46	10.50.00
TN25	10000mW	43.00.0	41.59.90	42.30.00 [20 km 1.28.00]	51.30.0	49.59.98	51.30.00 [20 km 1.46.00]
25	HJ	2.10	2.10	2.10	1.69	1.70	1.70
	PV	5.10	5.10	5.10	3.70	3.70	3.70
	LJ	7.50	7.58	7.55	5.85	5.90	5.90
	TJ	15.40	15.39	15.40	12.30	12.39	12.35
25	SP	15.20	15.35	15.30	13.20	13.51	13.50
	DT	46.00	47.00	47.00	44.00	44.88	44.50
	HT	59.00	59.83	59.00	52.00	53.66	53.00
	JT	68.00	69.07	69.00	48.50	49.79	49.00
TN16	DEC.	***	6773	6800			
	HEP.				***	4787	5000

※ 10000 m と混成種目については個人選手権種目ではなく、WUG 代表選考種目として行い、ターゲットナンバーを導入する。。

※ 3000 m SC、5000 m、10000 m、10000 m W は決勝1組で実施のため、ターゲットナンバーを導入する。

資料

2022年度陸上競技研究誌発行について

【提案事項】

◆現在の発行 年4回(6/30、9/30、12/31、3/31) 年会費6,000円(税込み)



令和4年度より 年3回(6/30、10/31、2/末日) 年会費6,000円(税込み)

※昨今、論文が集まりにくい状況となっているが、引き続きクオリティを重視しながら、修士論文等も新たに対象、対象とする研究領域の拡大、それに伴う編集委員の検討なども視野入れ、さらに充実した発行を目指す。

【参考資料】

◆【創刊の経緯】

「学べる学連」を旗印に、1990年に「陸上競技研究」第1号が発行された。この研究誌は、研究から得られた知見をコーチング現場に導入したり、逆にコーチング現場での問題点を研究によって解決しようという意欲の喚起に役立ってきた。多くの総説、原著論文、研究資料、実践研究、一流競技者の育成過程をまとめた事例報告、国際競技会報告、卒業論文紹介、海外論文の紹介、海外事情など多くの読者に提供してきた。これから得られる莫大な量の科学的知見が、我が国の陸上競技発展の一助になったことは間違いない。

◆公益法人認定における公益目的事業3(公3)の位置づけとなっている

◆国際標準逐次刊行物番号：I S S N0919-9918

◆陸上競技社へ発行業務を委託「編集・進行」(委託内容)について

①企画立案：調査研究委員会

安井年文委員長(青学大)、青木和浩(順天堂大)、青山亜紀(日本大)、遠藤俊典(青学大)、大山圭悟(筑波大)、金子晴香(順天堂大)、鯉川なつえ(順天堂大)、杉田正明(日体大)、田原陽介(青学大)、前村公彦(筑波大)、眞鍋芳明(中京大)、吉田孝久(日女体大)、和田正信(広島大)

②編集会議進行(事前に各委員より情報を集め、会議で使用する進行表を作成)

③投稿論文・査読者手配・査読結果の手配(査読は複数回が一般的)

④依頼原稿(総説・事例報告)(海外遠征・主要国際大会のレポート)を委員会の指示のもと依頼、進行、原稿の管理。データの入稿。写真の選定。

⑤初稿時、著者による校正に関する対応。再校以降は委員2名による校正。

⑥最終チェック完了後、日本学生陸上競技連合登録の大学への発送手配及び一般会員への発送手配

【日本スポーツ振興センター toto 助成事業】

「発行に関わる予算(概算)」	toto助成金収入	2,900,000円
	会費収入	700,000円
	日本学連負担	2,500,000円
	合計	6,100,000円

【配布状況】

1200部×4回発行 1200部内訳＝加盟校配布分810部 一般購読者140名 その他250部

資料

令和4年公益社団法人日本学生陸上競技連合 学生役員一覧

役職	氏名	フリガナ	大学	学年	地区
幹事長	公文 ころこ	クモン ココロ	横浜市立大学	4	連合
副幹事長	崎井 優希菜	サキイ ユキナ	東京国際大学	3	連合
常任幹事	安岡 あき実	ヤスオカ アキミ	中央学院大学	3	連合
常任幹事	山岡 るな	ヤマザキ ルナ	順天堂大学	3	連合
常任幹事	松原 月歌	マツバラ ツキカ	中央大学	2	連合
常任幹事	山中 勇利	ヤマナカ ユウリ	東北大学	3	東北
常任幹事	伊藤 舞	イトウ マイ	愛知淑徳大学	4	東海
幹事	奥谷 涼	オクヤ リョウ	札幌大学	3	北海道
幹事	大和田 天空	オオワダ ソラ	宮城教育大学	3	東北
幹事	高橋 花奈	タカハシ ハナ	日本大学	4	関東
幹事	月岡 葵梨香	ツキオカ キリカ	法政大学	3	関東
幹事	児玉 怜奈	コダマ レナ	青山学院大学	3	関東
幹事	中嶋 優葉	ナカジマ ユウハ	日本体育大学	3	関東
幹事	小川 果梨	オガワ カリン	帝京大学	4	関東
幹事	八谷 隆太郎	ヤツヤ リュウタロウ	愛知教育大学	4	東海
幹事	山本 悠生	ヤマモト ユウセイ	名古屋大学	4	東海
幹事	坂本 彩華	サカモト アヤカ	愛知教育大学	3	東海
幹事	杉山 温夢	スギヤマ ハルム	信州大学	3	北信越
幹事	高重 広	タカシゲ ヒロシ	京都大学	4	関西
幹事	西山 在喜	ニシヤマ アリキ	立命館大学	3	関西
幹事	村上 琴未	ムラカミ コトミ	関西大学	4	関西
幹事	半田 匠	ハンダ タクミ	広島大学	3	中国
幹事	笠置 悠真	カサギ ユウマ	九州大学	3	九州

※学生役員任期：令和4年1月1日～令和4年12月31日

※学年は、令和4年度(4月1日以降)の学年

月日	行事(報告内容)
9月16日(木)	第49回理事会(熊谷市/ホテルマロードイン)
9月17日(金) ~19日(日)	天皇賜盃第90回日本学生陸上競技対校選手権大会(於:熊谷スポーツ文化公園)
9月21日(火)	第53回全日本大学駅伝運営会議(オンライン会議)
9月24日(金)	第39回全日本大学女子駅伝出場枠検討会議(オンライン会議)
9月28日(火)	第39回全日本大学女子駅伝第2回実行委員会(於:仙台市/オンライン会議併用)
9月30日(木)	陸上競技研究126号発行
10月2日(土)	第91回日本I Cのための下見/打ち合わせ(京都/西京極)
10月9日(土) ~10日(日)	第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走(於:出雲市)
10月19日(火) ~	関西インカレ視察(第91回日本インカレ開催に向けた準備)(於:大阪/長居競技場)
10月19日(火)	日本陸連/協力団体連絡協議会(オンライン会議)
10月24日(日)	日本陸連/医務部長会議(オンライン会議)
10月26日(火)	会報162号発行
10月27日(水)	競技委員会(於:日本学連事務所/オンライン併催)
10月28日(木)	日本陸連/事務局会議(学連登録に関する協議会)(オンライン会議)
10月30日(土) ~31(日)	第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(於:仙台市)
11月4日(木)	2021全日本大学女子選抜駅伝競走交通対策会議(於:富士市)
11月6日(土) ~7日(日)	秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝(熱田神宮⇒伊勢神宮)
11月9日(火)	F I S Uワールドエナジーゲームズ2021/成都 事務手続き説明会(オンライン会議)
11月15日(月)	F I S Uワールドエナジーゲームズ2021/成都 日本代表選考要項検討会議(オンライン会議)
11月17日(水)	第25回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会要項検討会議(オンライン会議)
11月18日(木)	第41回全日本大学女子駅伝コース変更のための現地下見(於:仙台市)
11月22日(月)	第25回日本学生ハーフマラソン選手権大会立川市打ち合わせ会議(立川市/泉体育館)
11月22日(月)	2022日本学生個人選手権/WUG選考競技会大会要項検討会議(於:オンライン会議)
11月24日(水)	2022日本学生個人選手権/ハンマー会場打合・下見(於:茅ヶ崎市/柳島スポーツ公園競技場)
11月24日(水)	普通会員登録規程改定に関するミーティング(日本陸連/総務委員会)(オンライン会議)
11月25日(木)	2021全日本大学女子選抜駅伝競走実行委員会(於:富士市/オンライン会議併用)
11月25日(木)	2022日本学生個人選手権/WUG選考競技会大会(第2回)要項検討会議(於:オンライン会議)
11月25日(木)	競技委員会競技委員会(於:日本学連事務所/オンライン併催)
11月26日(金)	総務委員会(於:日本学連事務所/オンライン併催)
11月29日(月)	陸上競技研究発行に関する検討会議(オンライン会議)
12月1日(水)	第29回企画委員会(オンライン会議)
12月4日(土)	栄章贈与式/日本記録章・日本学生新記録章(於:新宿/T K Pコンファレンスセンター)
12月4日(土)	第50回理事会(於:新宿/T K Pコンファレンスセンター)

【各地区学連出場枠について】

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

1. 基本枠 (8) 各地区学連には、基本枠として 1 枠ずつを配分する。

2. 成績枠 (12) 前年度大会で 1 位～ 12 位のチームの所属する地区学連の数を出場枠として配分する。

(注 1) 出場枠が 1 の学連においては、出場資格を「選抜チーム」または「単独校チーム」のどちらかを選ぶことができる。出場枠が 2 以上の学連においては、「単独校チーム」のみとなる。

(注 2) ひとつの地区学連の出場枠は最大で 10 (基本枠・成績枠の合計) とする。

出場枠が 10 を超えた地区学連は、超過分の成績枠を 13 位のチームの所属する地区学連に譲ることとなる。

(注 3) アイビーリーグ選抜が 12 位以内の場合は 13 位のチームの所属する地区学連に成績枠を配分する。

1. 成績枠の配分

第33回大会結果			→	次回 第34回大会出場枠	
1	東京国際大学	関東		→ 成績枠	関東 1
2	青山学院大学	関東	関東 2		
3	東洋大学	関東	関東 3		
4	國學院大學	関東	関東 4		
5	駒澤大学	関東	関東 5		
6	早稲田大学	関東	関東 6		
7	創価大学	関東	関東 7		
8	帝京大学	関東	関東 8		
9	東海大学	関東	関東 9		
10	順天堂大学	関東	関東10 (関東超過分)		
11	立命館大学	関西	関西 1		
12	大阪経済大学	関西	関西 2		
13	関西学院大学	関西	関西 3 (関東超過分)		

2. 第34回大会各地区学連出場枠について

地区	第34回大会			第33回大会 出場枠数
	出場枠数	基本枠	成績枠	
北海道	1	1	0	2
東北	1	1	0	1
関東	10	1	9	10
北信越	1	1	0	1
東海	1	1	0	1
関西	4	1	3	3
中四国	1	1	0	1
九州	1	1	0	1
合計	20	8	12	20

第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会各地区学連出場枠について

【各地区学連出場枠について】※第40回大会より出場校選出方法が変更となる。

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

- シード枠(8) 前年度大会で1位～8位に入った大学には、出場シード権を与える。
- 成績枠(9) 前年度大会で9位～17位のチームの所属する地区学連の数を出場枠として配分する。
- 基本枠(8) 成績枠で、枠を獲得できなかった地区に1枠ずつ配分する。残った枠については、5000m 6名(当該年度内のタイム)の合計タイムにより出場校を決定する。

(注) その他、大会主催者の認める選抜チームのオープン参加を認める場合がある。

1. シード枠及び成績枠の配分について

第39回大会結果			→	次回 第40回大会出場枠	
1	名城大	東海		シード枠	名城大
2	大東文化大	関東	大東文化大		
3	拓殖大	関東	拓殖大		
4	立命館大	関西	立命館大		
5	日本体育大	関東	日本体育大		
6	大阪学院大	関西	大阪学院大		
7	城西大	関東	城西大		
8	松山大	中国四国	松山大		
9	東北福祉大	東北	成績枠	東北1	
10	関西大	関西		関西1	
11	大阪芸術大	関西		関西2	
12	中京学院大	東海		東海1	
13	関西外国語大	関西		関西3	
14	福岡大	九州		九州1	
15	佛教大	関西		関西4	
16	鹿屋体育大	九州		九州2	
17	兵庫大	関西		関西5	

2. 第40回大会各地区学連出場枠について

地区	第40回大会					第39回
	計	シード枠	成績枠	基本枠	基本枠 (5000m 6名の合計タイム)	
北海道	1	0	0	1	4	1
東北	1	0	1	0		2
関東	5	4	0	1		7
北信越	1	0	0	1		1
東海	2	1	1	0		3
関西	7	2	5	0		7
中四国	2	1	0	1		2
九州	2	0	2	0		2
合計	21	8	9	4		4

※上記の結果から、第40回大会のシード枠以外の各地区学連からの出場枠は次の通り、北海道1、東北1、関東1、北信越1、東海1、関西5、中国四国1、九州2となる。さらに、すべての地区を対象として5000m 6名(当該年度内のタイム)の合計タイムから上位4校を選出する。ただし、選考の対象となるのは各地区選考会に出場した大学に限り、対象となる記録は、2022年4月1日～9月末日の期間に出した記録でなければならない。なお、電気計時による記録のみ有効とする。

【各地区学連出場枠について】

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

1. シード枠(8) 前年度大会で1位～8位に入った大学には、出場シード権を与える。
2. 基本枠(8) 各地区学連には、基本枠として1枠ずつを配分する。
3. 成績枠(9) 前年度大会で9位～17位のチームの所属する地区学連の数を出場枠として配分する。

(注1) ひとつの地区学連の出場枠は最大で15(シード枠・基本枠・成績枠の合計)とする。

出場枠が15を超えた地区学連は、超過分の成績枠を18位のチームの所属する地区学連に譲ることとなる。

(注2) その他、大会主催者の認める選抜チームのオープン参加を認める場合がある。

1. シード枠及び成績枠の配分について

第53回大会結果			次回 第54回大会出場枠	
1	駒澤大	関東	シード枠	駒澤大
2	青山学院大	関東		青山学院大
3	順天堂大	関東		順天堂大
4	國學院大	関東		國學院大
5	東京国際大	関東		東京国際大
6	早稲田大	関東		早稲田大
7	明治大	関東		明治大
8	中央大	関東		中央大
9	法政大	関東	成績枠	関東1
10	東洋大	関東		関東2
11	中央学院大	関東		関東3
12	東海大	関東		関東4
13	帝京大	関東		関東5
14	拓殖大	関東		関東6
15	日本体育大	関東		関東7(超過)
16	関西学院大	関西		関西1
17	皇學館大	東海		東海1
18	立命館大	関西		関西2(関東超過分)

2. 第54回大会各地区学連出場枠について

地区	第54回大会				第53回
	計	シード枠	成績枠	基本枠	
北海道	1	0	1	0	1
東北	1	0	1	0	1
関東	15	8	1	6	15
北信越	1	0	1	0	1
東海	2	0	1	1	2
関西	3	0	1	2	3
中四国	1	0	1	0	1
九州	1	0	1	0	1
合計	25	8	8	9	25

令和3年学生役員会議

常任幹事 崎井 優希菜

期 日：2021年12月4日(土) 12:05～13:20

場 所：TKP 新宿カンファレンスセンター
カンファレンスルーム 4 E

各地区学連の新幹部役員が集い、恒例の学生役員会議が開催されました。本連合の年度末は3月31日ですが、4年生学生役員の活動は、後輩への引継ぎの関係で基本的に12月31日をもって終了となります。会議では、令和4年2月～4月に行う大会や事務関係の研修が行われました。

また、例年理事会後に行われる理事・学生等を交えた役員懇親会・卒業学生役員は卒業生の出席者が集まらず中止となりました。式典はありませんでしたが、松本正之会長より出席していた卒業予定の学生役員に記念品が贈られました。また1人ひとりから学連活動を通じた思い出などが述べられました。最後に松本正之会長より労いのお言葉をいただき、盛会の内に終了致しました。

【会議報告】

1. 令和4年の学生役員について

次年度4年生の公文こころが幹事長に推薦され、理事会に提案されることとなりました。

(令和4年学生役員一覧は理事会資料として別項掲載)

2. 事務手続きについて

年度始めに必要な正会員の名簿や、各地区学連に書類提出を依頼しました。

3. 令和4年2月～4月の日本学連主催・共催大会について

令和4年2月～4月に行われる日本学連主催・共催競技会5大会について、エントリー等の事務作業についての説明を行いました。

4. 普通会員登録について

基本の学連登録作業に加え、ス

ポーツ安全保険の適用についての説明を行いました。登録会員を一人も取りこぼすことがないように登録業務のルールを厳守と正確さを改めて確認しました。

5. 公認競技会申請及び記録公認申請について

2月に締切となる来年度最初の公認競技会申請について、申請方法の周知や注意事項の徹底を促すとともに、記録の電子申請などを中心に、公認競技会申請及び記録公認申請の全体的な流れを確認しました。

6. 学生幹部役員研修会について

令和4年3月に行われる学生幹部役員研修会までの作成物や、協議内容案について各地区学連に提案、また意見交換を行いました。

公益社団法人日本学生陸上競技連合 卒業学生役員一覧(2021年)

No.	氏名	日本学連役職	地区学連役職	所属大学
1	古屋敷 律希	2021年幹事長 2020年副幹事長 2019～2018年常任幹事		日本体育大学
2	高安 弘人	2020年常任幹事		東北大学
3	小田切 拓真	2021年常任幹事		中京大学
4	真鍋 宏太郎	2020年幹事	2020年北海道学連幹事長	北海道大学
5	渡辺 啓暉		2020年北海道学連会計	北海道大学
6	長谷川 麗央	2020年幹事	2020年東北学連幹事長	仙台大学
7	山形 真央		2020年東北学連会計	宮城教育大学
8	本松 貴太	2021年幹事 2020年幹事	2021年関東学連幹事長	千葉大学
9	八尾 あす香	2021年幹事 2020年幹事	2021年関東学連会計 2020年関東学連会計	中央大学
10	三輪 彩乃	2021年幹事 2020年幹事	2021年関東学連常任幹事	東海大学
11	成田 昂暉	2020年幹事	2020年北信越学連幹事長	信州大学
12	成田 太遥		2020年北信越学連会計	信州大学
13	兵藤 賢	2021年幹事 2020年幹事	2021年東海学連幹事長	名古屋大学
14	中村 俊介	2021年幹事	2021年東海学連会計	岐阜大学
15	山口 佳那子	2021年幹事 2020年幹事	2021年関西学連幹事長	京都大学
16	北村 遥大	2021年幹事	2021年関西学連会計	関西学院大学
17	丸尾 拓	2020年幹事	2020年中国四国学連幹事長	広島大学
18	中村 周聖		2020年中国四国学連会計	広島大学
19	木野 峻	2020年幹事	2020年九州学連幹事長	九州大学
20	乙藤 祐樹		2020年九州学連会計	西南学院大学

※連合役員経験者・地区三役経験者

第67回指導者会議(コンプライアンス研修会) 開催要項 【指導者や競技者等のコンプライアンスについて考える】

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムやフォーラム、講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

本年度の第1回コンプライアンス研修は、2021年5月15日(土)、第48回理事会(Zoomによるリモート会議)において理事・監事らを対象に実施されました(参照:注1)。

そして、第67回指導者会議(コンプライアンス研修会)は、2022年3月5日(土)、下記の予定で実施されます。本研修会の目的は、理事・監事らが指導者や競技者等のコンプライアンスについて考え、より意識啓発などを図ることにあります。具体的な視点としては、日本陸連の「倫理に関するガイドライン」(参照:注2)等を参考として意見交換等を行い、今後の課題などを明らかにすることにあります。会場の皆さん(又は、リモート参加者)も討論に加わって、一緒に今後の課題を探っていきます。

注1) 第48回理事会 報告事項 ⑤「ガバナンスコード原則3:コンプライアンス研修」、資料10

注2) 公益財団法人日本陸上競技連盟「倫理に関するガイドライン」

<https://www.jaaf.or.jp/ethic/ethic.pdf> (参照日:2021-10-25)

「倫理に関するガイドライン」(2013)には、「ガイドラインの目的と理念」「セクハラをなくすために」「暴力行為をなくすために」「社会の範となるために」「セクハラ・暴力行為等に関する相談への対応」が示されています。

記

新型コロナウイルス感染症防止対策として会議規模(時間と参加者等)を縮小させていただきます。

1. 主 催 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
2. 日 時 2022年(令和4年)3月5日(土)(理事会終了後)
(注:時間は予定です。確定後、学連 Website に掲載します)
15:15 ~ 15:20 諸説明 / (Zoom 進行等) (司会)
15:20 ~ 15:30 開会挨拶 (会長)、提案趣旨 (委員長)
15:30 ~ 15:50 (20分) 工藤洋治講師 講義テーマ「指導者・競技者にとってのコンプライアンスとは」
15:50 ~ 17:00 (70分) 演者らの意見交換等
17:00 ~ 17:10 まとめ (委員長)、閉会挨拶 (専務理事)
3. 会 場 理事会の会議室と同室です。(注:現時点では未定です。確定後、学連 Website に掲載します)尚、理事会がリモート開催の場合は、研修会も同様です。(接続方法は後日連絡いたします)
4. 対 象 学生連合(理事会関係者、各委員会関係者、学生幹事)
5. 講 師 工藤 洋治 氏(弁護士、学生連合:理事)
6. 司 会 障子 恵氏(跡見学園女子大学、学生連合:理事・総務委員長・倫理委員・指導者会議運営委員)
7. コーディネーター
船原 勝英 氏(元共同通信スポーツ企画室長、学生連合:倫理委員長・指導者会議運営委員)
8. 演者(順不同)
栗山 佳也 氏(学生連合:常務理事・強化委員長)
関根 春幸 氏(学生連合:常務理事・競技委員長・倫理委員)
公文ころろ 氏(学生連合:2022年幹事長)
崎井優希菜 氏(学生連合:2022年副幹事長)

<参考資料>

- 1) スポーツ庁:例えば、インテグリティ、ガバナンス、コンプライアンスなど
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop10/list/detail/1418884_00002.html(参照日2021-10-25)
- 2) 令和2(2020)年度スポーツ庁委託事業「スポーツ・インテグリティ推進事業におけるスポーツ団体のガバナンス強化の推進」報告書
https://www.mext.go.jp/sports/content/20210318-spt_sposeisy-000013551_1.pdf(参照日2021-10-25)

2021年を振り返って

2021年4月以降の活動としては、当初2021年8月に予定されていたFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)が新型コロナウイルス感染症の蔓延のため2022年(6月26日～7月7日)に延期が決定されたことにより、選手選考などに関連する事項(選考要項の一部変更など)について再度協議することになった。強化委員会では3月に行われた男女ハーフマラソンや競歩において、選考競技会の結果ですでに内定者を出していたが、新たに2022年3月に行う選考レースにおいて再度選考することとなった。また、一般種目は2021年まで6月に実施していた2021日本学生陸上競技個人選手権大会を2022年4月に選考競技会として行い、同競技会で男女10000mと男女混成競技を加えることとした。

4月以降の主な競技会では、2021日本学生陸上競技個人選手権大会は6月4日～6日、神奈川・レモンガススタジアム平塚(ハンマー投:相模原ギオンフィールド)で無観客で行われた。大会新記録は男子5000m、女子5000m、100mハードル、円盤投、やり投の計4種目で樹立された。

2020年は中止となったが2021オールスターナイト陸上(秩父宮賜杯第61回実業団・学生対抗)は7月17日、神奈川・レモンガススタジアム平塚にて行われ、235点対163点で実業団が勝利した。この大会も無観客試合であった。

天皇賜盃第90回日本学生陸上競技対校選手権大会は9月

強化委員長 栗山 佳也

17日～19日埼玉・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で無観客試合として行われ、男子総合優勝・順天堂大学86点、女子総合優勝・日本体育大学93点であった。コロナ禍にあって、標準記録の設定から出場者数が多くなり、競技時間など競技会運営に支障をきたした。また、競技者負担の軽減など3日間の開催日程の問題点も含め、次大会に向けて検討しなければならない課題を残した。

第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走は島根・出雲市で行われ、東京国際大学が初優勝を飾った(第32回大会は中止)。

第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は10月31日宮城・仙台市で行われ、名城大学が第1区から第6区まで首位を走り、5連覇を達成した。

秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会は11月7日愛知・名古屋市～三重・伊勢市106.8km8区間、27チームが出場し、駒澤大学と青山学院大学が最終区間まで競い合い、わずか8秒差で駒澤大学が2年連続14回目の優勝を飾った。

新型コロナウイルス感染症により2シーズンに渡るさまざまな活動制限や影響を受けているが、努力と工夫により苦難を乗り越えている各大学・各選手に対し、競技力向上に貢献できるように協力したいと思います。

競技会の開催と運営の流れについて

競技委員長 関根 春幸

競技委員会では学生幹事をサポートして、日本学生陸上競技連合主催大会の円滑な運営を行っています。それに加えて、各地区学連主催競技会の開催申請や記録申請などもチェックをしています。

まず、日本学生陸上競技連合主催大会ですが、大会要項が強化委員会主導で作成されます。その要項を作る際に、競技会会場となる場所を確認し、予約します。昨今、ハンマー投会場が競技会を行う同じ会場ですでに苦勞することが増えています。なるべく1つの競技会場ですべての競技ができること、競技会を盛り上げるために大型スクリーンが備え付けられること、夜間照明があり競技会が薄暗くなくても継続できることなどを考慮に入れ、競技場の選定を行います。

競技場が決定すると次は競技役員の確保をします。競技場のある地域の陸上競技協会に公認審判員の派遣を、各地区学連には学生審判員の派遣を、近隣の大学からは補助員の派遣をそれぞれお願いしています。平日の大会開催では公認審判員の参加が厳しいことに加え、学生も授業があることで人手が足りない状況が続いています。

場所と人の確保ができると、いよいよエントリー作業が始まります。エントリーを受け付け、競技者名やフリガナ、資格記録に至るまで間違いはないかどうかをチェックし、エントリーを受け付けます。

受付後は、資格記録に従ってルール通りに番組編成を行い、スタートリストを作成します。それと同時に競技日程や予選・準決勝・決勝の進み方も決めていきます。インカレでは各大学1種目3名までが出場し、対校得点を争いますから、その

3人を同じ組に入れられないなどの工夫をしながら作業を進めます。ここである程度、どんな競技会になるかが見えてきますので、学生幹事を中心に競技運営マニュアルを作成し、学生幹事がどんな仕事をいつするか、それに競技委員がどのようにかかわるか、などを書き込んでいきます。

大会当日は大会役員や競技役員の一員として大会運営にかかわり、学生幹事をバックアップしています。大会終了後もしっかり反省をして、次の大会をより良いものにするために努力しています。

地区学連とのかかわりですが、学生幹事幹部研修会で競技会運営について研修したり、実際に競技会会場に向いて、実際の運営を研修したりしています。また、競技会申請の受付や記録申請の際のリザルトのチェックを行い、競技会がルール通りに行われているかを確認しています。ルール修正に伴い、学生審判に講習を行うこともあります。なかなかルールを聞いて実践できる人はいませんので、今後は現場に向いてルールの適用方法なども伝えていければと思っています。

今年度も、世界陸連から走幅跳、三段跳の踏み切りやレーン侵害についてルール修正の情報が寄せられています。世界で活躍する学生競技者にもその内容を熟知してもらい、さらに良いパフォーマンスにつながってもらえればと思います。

もちろん2022年4月からの競技会にもきちんと適用できるよう、学生幹事と連携しながら各地区学連に届くよう研修の機会を設けたいと思います。今後も素晴らしい競技会の実現に向けて努力してまいります。

「陸上競技研究」発行における 令和2年度スポーツ振興くじ助成金の実施結果について

日本学生陸上競技連合は、「調査研究」を公益目的事業の1つとして掲げているなかで、「陸上競技研究」を年4回発行し、加盟校および会員の皆様にお届けしております。

令和元年度は、スポーツ振興くじ助成（toto助成金）を受け、第121号～第124号を発行しました。この助成事業実施に関わる収支は以下の通りです。

【令和2年度「陸上競技研究」発行事業の収支決算】

(収入) 単位：円

科目	令和元年度	備考
くじ助成金	2,935,000	
自己負担額	2,231,525	
購読者売上	822,000	
合 計	5,988,525	

(支出)

科目	平令和元年度	備考
諸謝金	271,700	
旅費交通費	0	
消耗品費	0	
印刷製本費	1,926,225	助成対象経費
通信運搬費	751,300	
編集費/デザイン	2,643,300	助成対象経費
その他	396,000	
合 計	5,988,525	

◆日本学生陸上競技連合「陸上競技研究」購読者募集

「学べる学連」を旗印に、1990年に「陸上競技研究」第1号が発行されました。この研究誌は、研究から得られた知見をコーチング現場に導入したり、逆にコーチング現場での問題点を研究によって解決しようという意欲の喚起に役立ちました。多くの総説、原著論文、研究資料、実践研究、一流競技者の育成過程をまとめた事例報告、国際競技会報告、卒業論文紹介、海外論文の紹介、海外事情など多くの読者に提供しております。これから得られる莫大な量の科学的知見が、我が国の陸上競技発展の一助になったことは間違いないと思います。昨今、購読者の減少が続いておりますが、日本学連の理念でもありません陸上競技の「向上と進展」のため、充実した発行に向け努力してまいりたいと思いますので今後ともご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

※国際標準逐次刊行物番号：ISSN 0919-9918

「陸上競技研究」発行における 令和3年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について

日本学生陸上競技連合は、「調査研究」を公益目的事業の1つとして掲げているなかで、「陸上競技研究」を年4回発行し、加盟校および購読会員の皆様にお届けしております。

令和3年度は、第125号～第128号を予定しております。本年も昨年に引き続き、スポーツ振興くじ助成（toto助成金）を受けて実施する予定です。この助成事業の令和3年度収支予算は以下の通りです。

【令和3年度「陸上競技研究」発行事業の収支予算書】

(収入) 単位：円

科目	令和2年度	備考
くじ助成金	2,935,000	令和3年度決定
自己負担額	2,433,940	
購読者売上	720,000	
合 計	6,088,940	

(支出)

科目	令和2年度	備考
諸謝金	264,000	
旅費交通費	55,000	
消耗品費	52,800	
印刷製本費	1,968,340	助成対象経費
通信運搬費	734,800	
編集費/デザイン	2,618,000	助成対象経費
その他	396,000	
合 計	6,088,940	

会員について(2021年度)

令和3年12月31日現在

正会員 135名 普通会員 18,565名 賛助会員 7名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷 単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	196	555	6,153	449	1,084	2,849	1,159	894	13,339
4月	290	134	1,075	307	288	406	236	413	3,149
5月	46	179	399	90	111	75	140	64	1,104
6月	7	9	103	30	137	87	61	47	481
7月	12	5	71	20	40	66	35	34	283
8月	8	6	53	8	7	27	9	17	135
9月	3	6	27	12	2	6	8	10	74
10月	0	0	6	2	1	6	4	1	20
11月	0	0	9	0	2	4	3	2	20
12月		0	2	0	0	9	1	0	12
二重登録		-1	-3	-2	-4				-10
退会者	-2	-3	-12	-1	-1	-18	-2	-3	-42
合計	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1,479	18,565

【参考:普通会員数の推移】

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2021	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1,479	18,565	391 ↑	-2,132	687
2020	556	896	7,704	914	1,610	3,419	1,600	1,475	18,174	-2,122 ↓	-1,916	933
2019	702	979	8,373	996	1,938	3,764	1,787	1,757	20,296	-446 ↓	840	3,444
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	-41 ↓	2,168	4,085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3,758	1,853	1,755	20,783	86 ↑	2,609	4,450
2016	756	933	8,578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4,483
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205	256 ↑		
2001	617	811	5,604	685	1,123	2,486	1,258	1,365	13,949	82 ↑		

2021年度	男子	女子	合計	前年比	比率(%)
北海道	440	120	560	4	3.0
東北	664	226	890	-6	4.8
関東	6,052	1,831	7,883	197	42.5
北信越	729	186	915	2	4.9
東海	1,203	464	1,667	68	9.0
関西	2,490	1,027	3,517	104	18.9
中国四国	1,254	401	1,655	77	8.9
九州	1,122	357	1,479	10	8.0
全体	13,954	4,612	18,566	456	

2020年度	男子	女子	合計
北海道	424	132	556
東北	660	236	896
関東	5,930	1,756	7,686
北信越	728	185	913
東海	1,147	452	1,599
関西	2,408	1,005	3,413
中国四国	1,175	403	1,578
九州	1,110	359	1,469
全体	13,582	4,528	18,110

令和3年度 賛助会員 (12月20日現在 五十音順、敬称略)

ご入会ありがとうございました

【個人】 浅見美弥子 石黒 成彬 入江 毅 黒岩 重幸 小池 七郎 佐藤 良男
竹田 憲司 田中 淳浩 豊岡 示朗 藤井 邦夫 山崎 健

【法人】 マット株式会社

賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ￥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があり、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

①申込書(個人・団体)に必要な事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。



②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。



③ご入金を確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

【発行所】 公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

編集後記

会報第162号(令和3年10月26日発行)以降の事業計画では、10月31日に第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市内のコース)、11月7日に秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会(熱田神宮～伊勢神宮のコース)を開催しました。現在(12月22日時点)では12月30日に開催予定の2021全日本大学女子選抜駅伝競走の準備に追われています。終了した3つの駅伝も、感染症対策に全神経を使いながら開催しました。新型コロナウイルス感染者数は激減しているのが現状ですが、また新たにオミクロン株が世界的に流行をする気配があり、2021全日本大学女子選抜駅伝競走もより慎重に対策を実行しています。

ワールドユニバシティゲームズ(中国/WUG成都)は4月に一時中止の発表があり、8月に2021年に延期されることの通知がありました。これを受け、2022年3月の男女競歩、男女ハーフマラソン、4月に開催予定の個人選手権を代表選手選考会にしました。WUGは2021年開催から

2022年に延期されたため、すぐ次の年の2023年はロシアのエカテリンブルグでの開催を控えています。日本学生陸上競技連合も忙しくなりそうです。

先日、内閣府から公益社団法人としての活動に対して査察が行われました。社会的にも責任がある団体ですのでいろいろご指摘を受けましたが、大きな問題はありませんでした。むしろ丁寧な運営を行っているとの感想をいただきました。今後、ご指摘をいただいた件に関して是正を行っていく所存です。

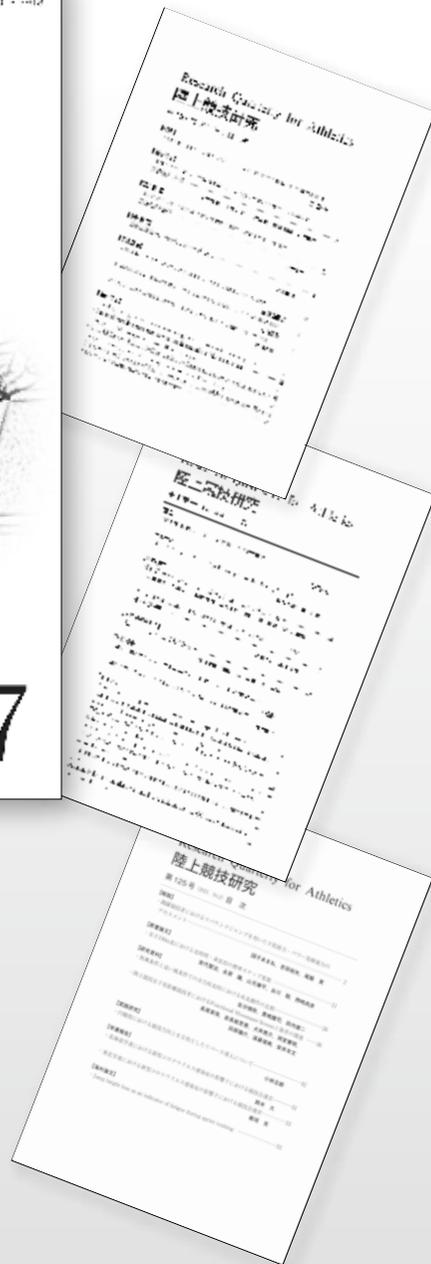
コロナ禍がいつ収束するか見通しは立ちませんが、その中で、日本学生陸上競技連合は用心に用心を重ね、また皆様からいろいろご意見をお伺いしながら粛々と令和3年度、令和4年度の事業計画を進めていくつもりです。今後とも進展と向上を目指したいと存じます。

(副会長/専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第127号
2021, No. 4
2021年12月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。購読会員として入会ご希望の方は、年会費(6,000円)を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から1年間」と必ず明記してください。

バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL.03-5215-8881) にお問い合わせください。